2021年度

事業報告書

学校法人 KOBE COLLEGE

神戸女学院

神戸女学院は2025年に
創立150周年を迎えます。

150th
Bridging Generations
150 Years of Excellence in Women's Education
未来を生きる人たちのために。

CONTENTS

02 理事長・院長メッセージ
03 建学の理念・教育目標／設置学校・学部・学科等／沿革
05 大学メッセージ／中高部メッセージ

神戸女学院　事業報告

07 大学の事業報告
11 中高部の事業報告
12 法人の事業報告

2021年度のトピックス

15 大学の取り組み
21 中高部の取り組み
23 法人の取り組み

神戸女学院　基本データ

25 入学定員・収容定員・在籍者数
26 在籍者数推移
27 志願者数・合格者数・入学者数
28 留学状況
29 卒業・修了・博士後期課程単位取得退学、博士学位授与の状況
31 就職・進学状況
33 役員・評議員
33 教職員
34 事務組織図

財務の概要 －2021年度決算－

35 2021年度決算について
35 事業活動収支計算書
38 資金収支計算書
39 貸借対照表
40 財務比率の推移

事業計画

41 中期計画（2021-2025）
43 2022年度事業計画

困難にあっても目指す教育への取り組みを続けます

本学院における2021年度の教育の業は、中高部、大学・大学院ともに、入学式で始め、卒業式で締め括ることができました。数々の困難に直面しながらも、生徒・学生、教職員、役員、めぐみ会、関係者一同が力を合わせました。皆様のご忍耐とお骨折り、またご努力に、改めて感謝申し上げます。

2021年度もコロナ禍に大きく影響されました。愛校バザーや創立者記念日の墓前礼拝、リトリートなどの学院行事は中止を余儀なくされました。大学は、年度当初は対面授業を実施できましたが、断続的に発出される緊急事態宣言により繰り返し制限を受けることとなりました。Wi-Fi設備の充実や奨学金の体制を整えるなど対応に努めました。そのような状況下ではありますが、大学の教育は「THE 世界大学ランキング日本版」や「大学通信」などの調査機関から高い評価をいただいています。中高部では年間を通して開校できましたが、課外活動や修学旅行などいくつものプログラムを縮小、変更せねばなりませんでした。しかし生徒は学内外で闊達に活躍し、学外での受賞者も多数にのぼりました。礼拝は一同が会する形式とは別に、大学ではオンディマンド、中高部では放送礼拝と工夫を重ね、授業・講義期間中は休みなく守ることができました。

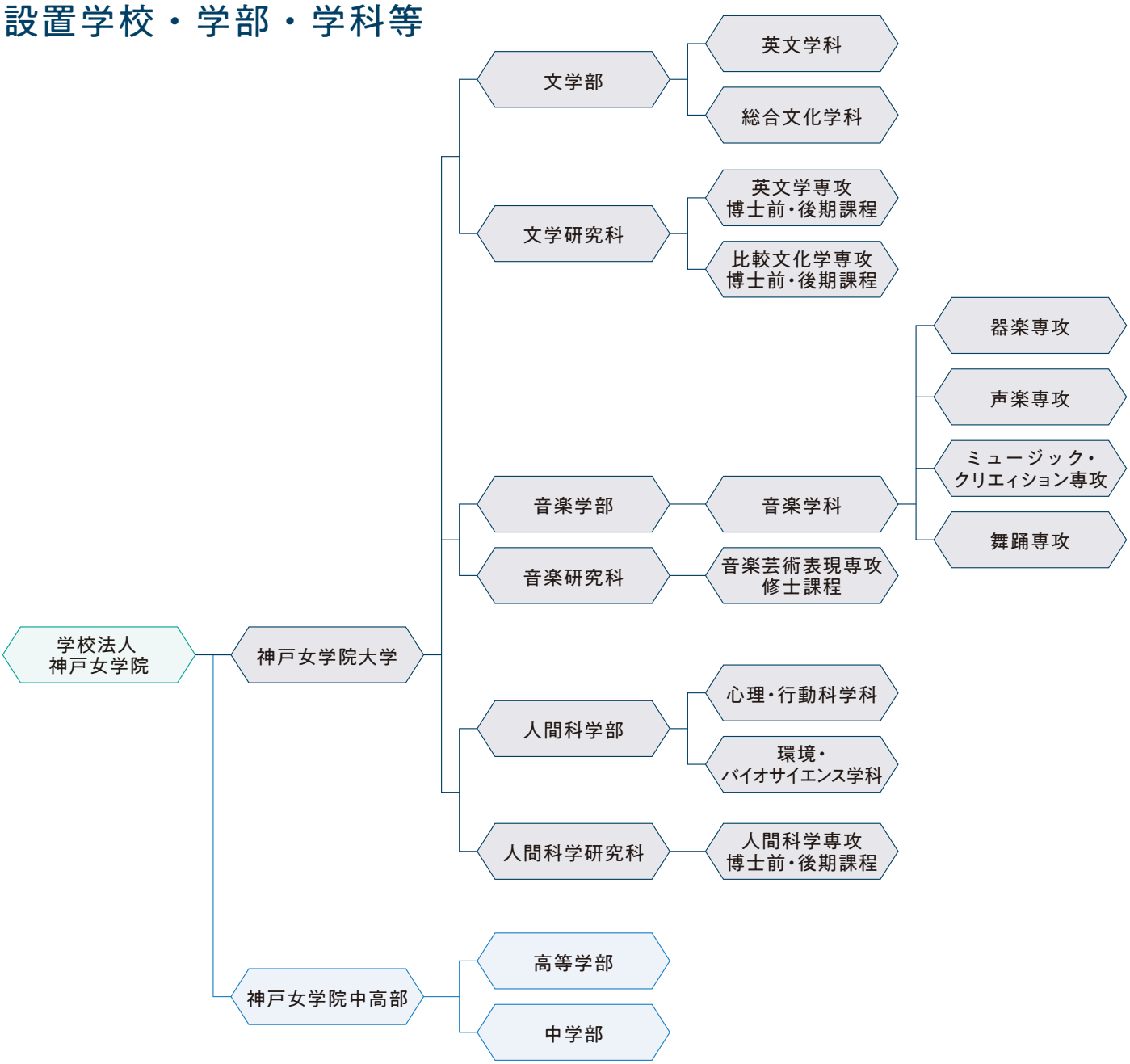
大学は入学者の急激な減少を受け、学外専門家の意見を参考にしつつ、原因の究明と学部・学科の改組も視野に納めた教育体制の変革に着手しました。またSociety5.0時代に適合する学修環境の設定も精力的に検討を続けています。中高部でもウイルス感染症を始めとする困難にあっても目指す教育ができるよう学修方法の変革、また法令が謳う少人数学級への具体策を思料しています。学院は、大学および中高部の新たな取り組みが深まり、生徒・学生がより良い学びをできるよう、力を尽くします。2022年度も、神戸女学院の新たな特徴を創出できるよう努力を重ねてまいります。引き続き、お祈りとお支えをくださいますようお願いいたします。

学校法人 KOBE COLLEGE
神戸女学院　理事長・院長

建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年（明治８年）、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立されました。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成でした。以来、高い教養と専門的知識、広い視野と適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきました。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っています。

設置学校・学部・学科等



学校法人 神戸女学院の沿革

1873年（明治６年）	米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、３月に来日。10月、神戸花隈村に私塾を開く。
1875年（明治８年）	創立。山本通に女子寄宿学校を開校。「女學校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。 初代校長はタルカット、舎監はダッドレーで、当初の学生数は26名（寄宿生３名、通学生23名）。
1879年（明治12年）	校名を「英和女學校」とし、５年制の課程を定め、中等教育のカリキュラムを整備。
1885年（明治18年）	高等科（１年）、および校章を定める。 三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、霊魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。
1891年（明治24年）	本格的な女子高等教育を開始、３年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。
1894年（明治27年）	「神戸女学院（Kobe College）」と改称。名実ともにCollege（女子高等教育機関）となる。
1906年（明治39年）	教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。
1909年（明治42年）	専門学校令により「専門部（４年制）」（当時の女子高等教育の最高水準）設置認可。
1919年（大正８年）	日本女子大、東京女子大に続き、専門部を「大学部」と称することを認められる。予科１年・本科３年を置く。
1933年（昭和８年）	西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。 現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部１号館、講堂・ソールチャペルを含む総務館などは当初の建物。
1947年（昭和22年）	学制改革により新制中学部設置認可。
1948年（昭和23年）	新制高等学部設置認可。４年制の新制女子大学―「神戸女学院大学」が認可され、文学部（英文学科、社会学科、家政学科）を設置。
1949年（昭和24年）	新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。
1965年（昭和40年）	大学院文学研究科（修士課程）英文学、社会学専攻を設置。
1967年（昭和42年）	家政学科が独立して家政学部となる。
1975年（昭和50年）	創立100周年を迎える。
1976年（昭和51年）	文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。
1980年（昭和55年）	大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科（修士課程）に日本文化学専攻を設置。
1989年（平成元年）	大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。
1990年（平成２年）	音楽専攻科を設置。
1993年（平成５年）	家政学部を改組して、人間科学部人間科学科を設置（家政学部は募集停止）。
1997年（平成９年）	大学院人間科学研究科（修士課程）人間科学専攻を設置。
1999年（平成11年）	大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。
2000年（平成12年）	創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科（修士課程）音楽芸術表現専攻を設置。 また大学院文学研究科日本文化学専攻を比較文化学専攻に改称。
2002年（平成14年）	大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。
2004年（平成16年）	大学院文学研究科（博士前期課程）英文学専攻に通訳コースを設置。
2005年（平成17年）	人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置（人間科学科は募集停止）。
2006年（平成18年）	音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。
2007年（平成19年）	音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエィション専攻に改組。
2013年（平成25年）	大学院文学研究科社会学専攻を廃止し、一部科目を比較文化学専攻に移行。
2014年（平成26年）	岡田山キャンパスの12棟の建物が、国の重要文化財に指定される。
2015年（平成27年）	創立140周年を迎える。大学院文学研究科（博士前期課程）英文学専攻にグローバル・スタディーズコースを設置。

学生への丁寧な指導を継続しつつ教育の充実と改革に励みます

神戸女学院大学
学長
中野　敬一

2021年度は4月に入学式を実施し、続いて対面を主とする前期授業が開始しました。以前であれば「例年通り」といえますが、入学式が行えず遠隔授業で始まった2020年度と比較すると好スタートでした。その際には「対面授業、施設利用の2021年度よりの拡充に際しての行動ガイドライン」を基に対面授業を大幅に増加する方針を立てましたが、緊急事態宣言が発せられた4月末には多くの授業を遠隔方法に変更しました。

7月になって対面に戻せたものの夏期休暇中に緊急事態宣言の発出があり、後期は遠隔授業で開始し、実験や実習、レッスン、ゼミなどは対面で行うことになりました。このように2021年度も新型コロナウイルスに振り回される一年でしたが、学生・教職員の努力と保護者・関係者のご支援、前年度に得た経験を活かすことで授業運営に停滞が生じなかったことは幸いでした。

授業以外では、感染防止の観点から学生同士、あるいは教員との直接交流は乏しくなり、課外活動等の制限や留学生の派遣・本学への受け入れ中止といった残念な状況も続きました。人格の形成や醸成を目標とする教育機関としては貴重な機会が奪われたことにもどかしい思いをしました。

その一方でオンライン留学や留学生バディによるオンラインアクティビティ、オンライン大学祭の実施等、困難な状況においても工夫を凝らして実行に繋げる学生に、柔軟さを備えた適応力の成長を見ることができました。

最後になりましたが、2021年度は教育のさらなる充実を目指し、本学の教育の柱である「国際理解の精神」「リベラルアーツ教育」に関連した改組・カリキュラム改編等の検討を重ねています。それと同時に学生への丁寧な指導を続けることを確認しあっています。『大学通信』で頂いた「教育力が高い大学ランキング」「有名企業400社就職率ランキング」でいずれも西日本私立女子大1位、「小規模だが評価できる大学」西日本私大1位の評価を維持できるように努めてまいります。

どんなことにも可能性があるよ

神戸女学院
中学部・高等学部　部長
森谷 典史

2021年度も2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、授業や学校行事を進めました。2021年度は、1月の中学部入試前に、中学部入試のために1日だけ臨時休校をした他は、学校を休みにすることなく、学習を続けることができました。

4月、入学式を各ご家庭から1名の参加と、人数制限のもと実施することができました。しかし、4月25日からの3回目の緊急事態宣言発令のため、授業参観日、PTA総会を実施することはできませんでした。5月学院バザーは中止が決まっていましたので、その日にS文科系クラブの生徒達による発表会を実施することができました。そして6月は、体育祭実行委員の方々が密にならないように工夫をしながら、体育祭を実施することができました。残念ながら、保護者の方には参加してもらうことができませんでしたが、生徒たちは昨年できなかった分も楽しむことができました。その後もまん延防止等重点措置のため、クラブ活動は制限されたままでした。そのため、夏のクラブ合宿や宿泊行事は中止としました。

8月20日に4回目の緊急事態宣言がでたため、文化祭は、校内用（外部の方には来ていただけない）を実施しましたが、感染をしないように生徒たちは楽しむことができました。9月30日に解除されたため、10月の修学旅行などの宿泊行事を、宿舎を兵庫県内に変え、実施できました。昨年度に続き、ラッキーでした。11月には、キャンパス見学会を2回実施することができ、本校を希望する小学生たちに直接学校に来ていただき、学校のことを説明し、校内を案内することができました。

2学期後半、礼拝も半分の学年が講堂に集い、半分の学年は放送で礼拝を守ることができるようになり、3学期は全学講堂に集うことができるだろうかと考えていたのですが、1月に入り、徐々に感染者数が増え、4回目のまん延防止等重点措置が発令されたため、再び全学放送での礼拝となりました。

それでも3月、各ご家庭から1名の参加で、卒業式を実施することができました。

困難な状況の中でも、工夫をしながら、共に楽しみを共有していくことができる、生徒の発想やアイデアには無限の可能性を感じることができた1年間でした。

神戸女学院 2021年度 事業報告

大 学
新型コロナウイルス感染関連

学生支援関係

神戸女学院大学緊急特別奨学金（2021年度入学者限定）の給付

コロナ禍において、家庭の収入が減少したことにより経済的支援を必要とする2021年度入学者に対し、30万円を7名に給付しました。（※2021年度事業計画）

授業関係

新型コロナウイルスの感染状況が変化する中で、活動基準レベルに応じて次のように授業を行いました。
＜レベル1＞
原則として対面授業とし、授業規模、授業内容により遠隔の方が適切と思われる授業については遠隔授業とする。
＜レベル2＞
一部授業については対面対応をし、残りは遠隔授業とする。
＜レベル3、4＞
遠隔授業を基本とし、どうあっても対面でなくてはできない授業については許可制とする。

① 2021年度前期授業

4月12日より対面を中心とした形態で前期の授業を開始しました。
- 4月12日～4月19日…レベル１
- 4月20日～4月27日…レベル２
- 4月27日～6月20日…レベル３（4/25～6/20まで緊急事態宣言発令）
- 6月21日～6月27日…レベル２
- 6月28日～7月28日…レベル１

② 2021年度後期授業

9月24日より遠隔を中心とした形態で後期の授業を開始しました。
- 9月24日～10月 3日…レベル３（8/20～9/30まで緊急事態宣言発令）
- 10月 4日～10月17日…レベル２
- 10月18日～ 1月16日…レベル1
- 1月17日～ 1月25日…レベル２

③ その他

- 自宅での遠隔授業環境が整備できない学生に対し、学校への登校を許可し、パソコン教室での遠隔授業の受講を認める対応を行いました。
- 学内での遠隔授業受講環境改善のため無線LANアクセスポイントを増やすなどネットワーク環境を増強しました。
- 学生、教職員に対してICT面でのサポートを行うために、遠隔授業サポート室の機器やソフトを充実させ対応しました。
- 学生がワクチン接種により授業を欠席した場合における措置を行いました。

授業外の対応

① 図書館

活動基準レベルに合わせて事前予約制等で開館をし、来館が困難な学生を対象に図書館資料郵送貸出や文献複写郵送サービスを実施しました。

② 課外活動

2021年４月25日に緊急事態宣言が発令されたため、4月27日より活動基準レベルが３に引き上げられ、課外活動は原則禁止としました。その後、活動基準レベルに応じた課外活動の制限を行いました。

③学生サポート

- 学生生活支援センターでは、各種証明書等の発行について、Web申請にて発行を受付け、登校できない学生への対応を行いました。
- カウンセリングルームでは、新型コロナウイルスに不安を抱えている学生に対し、相談窓口を設け学生支援を行いました。

④キャリア・サポート体制（※2021年度の事業計画）

- キャリアセンターでは、個別面談やエントリーシート・履歴書添削面談等を状況に応じて「対面」及び「遠隔」（メールや電話等）にて実施しました。
- 例年学内で開催している企業研究セミナーをオンラインで実施しました。
- 外部団体などが開催する就職情報交換会などで情報収集を積極的に行いました。

⑤留学

- 派遣留学はほぼ中止（韓国1名のみ渡航）、中期プログラムは全て中止となりました。
- 語学研修は夏期・春期ともに渡航型は中止し、一部のコースをオンラインに切り替えて実施しました。
- 留学生の受入れについては、前期2名、後期4名の留学生が本学の授業をオンラインで履修しました。

⑥その他

2021年度の授業の実施にあたっては、感染対策の一つとして、学生の入構を正門と西門に限定し、学生は専用端末に学生証をかざし、検温を行った上で入構することとしました。

大学行事

①入学式

2020年度中止となった入学式を、2021年度は4月5日に挙行することができました。感染拡大防止対策として、式を３回に分け、時間を短縮した形で行いました。また、保護者や関係者の参加はご遠慮いただき、ライブ配信、オンデマンド配信でご覧いただけるようにしました。

②フレッシュマンキャンプ

2020年度中止となった新入生の本学への早期適応を果たすことを目的としたフレッシュマンキャンプを、2021年度は4月に各学科に分かれ学内で実施しました。

③大学祭

2020年度中止となった大学祭（岡田山祭）を、2021年度は10月30日にオンラインで開催しました。

④保護者会

2021年11月27日、本学での開催を予定していましたが、感染拡大に伴いオンライン配信での開催に変更し12月下旬～2月末の期間に実施しました。

⑤大学クリスマス礼拝

2021年12月17日、前年度に引き続き感染拡大防止の対策をした形で礼拝をまもりました。

⑥オープンキャンパス

2021年度は6月、7月、8月、9月、12月、3月にそれぞれ事前予約制で人数を制限し、計6回開催しました。

⑦卒業式

2022年3月17日、卒業式を行いました。感染拡大防止対策として、式を３回に分け、時間を短縮した形で挙行しました。また、保護者や関係者の参加はご遠慮いただき、ライブ配信、オンデマンド配信でご覧いただけるようにしました。

⑧音楽学部の主な演奏会

感染拡大防止対策を十分行ったうえで以下の演奏会を実施しました。

- 音楽学部ウインドオーケストラのCD発売を記念して特別演奏会を本学エミリー・ホワイト・スミス記念講堂で開催しました。
- 舞踊専攻第16回公演を兵庫県立芸術文化センター阪急中ホールで実施しました。
- 定期演奏会を兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホールで実施しました。
- 舞踊専攻第13回卒業公演（全4公演）を本学エミリー・ブラウン記念館スタジオAで実施しました。
- 卒業演奏会を本学エミリー・ホワイト・スミス記念講堂で実施しました。

新型コロナウイルス感染関連以外

授業関係

ITオリエンテーション

学内システムの利用方法など、授業を受ける上で欠かすことができないITシステムの基礎を学んでもらうために、2021年度新入生向けのITオリエンテーションを行いました。

授業関係以外

①本学音楽学部ウインドオーケストラ

音楽学部ウインドオーケストラが、初となるCD（ワコーレコード）をリリースしました。

②記念賞等

- 記念賞は、各学科および研究科から推薦された学業・人物ともにすぐれた学生・院生に授与されるものです。今年度は15名の学生・院生に授与されました。また、国際ボランティア活動に貢献した学生に贈られる「大島初枝記念賞」は、2名の学生に授与されました。
- 課外活動で顕著な活動や成績を収めた本学学生自治会登録団体に贈られる「大学クローバー賞」は6団体に授与されました。

③絵本翻訳コンクール

第12回の「絵本翻訳コンクール」を実施し、174校から1167件の作品応募があり、最優秀賞1名、優秀賞2名、佳作2名、奨励賞7名に各賞が授与されました。

④「神戸女学院の100冊」書評コンテスト

2021年度は、本学の学生より 6 名の応募があり、慎重に審査した結果、最優秀賞1名、優秀賞1名、佳作2名に各賞が授与されました。

⑤国際交流

- ベトナムの日越大学とオンライン学生交流会を行い、本学からは14名の学生が参加しました。最終日にはグループごとに英語で発表を行いました。
- 2021年8月23日～9月３日の期間に、米国のペンシルバニア州立大学とオンライン夏期集中講座を実施し、英文学科１年生～３年生の１０名が参加しました。
- 2022年１月８日、14日の２日間に、米国のLesley University とのオンライン交流会を昨年度に続いて実施しました。英文学科の２年生以上の25名が参加しました。
- 2021年10月24日に本学講堂で英文学科の学生が日本語字幕制作を行ったバングラデシュ映画（第16回大阪アジアン映画祭に出品・上映）『竹で稼ぐ男たち』の上映をすると共に学生たちの日本語字幕制作の様子をまとめた映像も上映しました。
- 2021年3月に開催の第17回大阪アジアン映画祭に出品されたバングラデシュ映画『地のない足元』の日本語字幕制作のプロジェクトに英文学科の学生が参加しました。

⑥学生による授業評価アンケート

全学部生・院生対象に、授業改善を目的とした「学生による授業評価アンケート」を実施しました。

学習環境等の整備関係

①ITリプレイス

以下のとおりITリプレイスを行い、ウイズコロナにおける持続性の高い教育体制の整備を行いました（※2021年度の事業計画）。

- 情報セキュリティ強化のため多要素認証や未知の脅威に対応できるファイアウォールを導入しました。
- 利用者の利便性向上のため、シングルサインオンシステム拡充を含めた教育サーバーシステムの更新を実施しました。
- 堅牢で安定運用を可能とするためネットワークシステムの更新を実施しました。

②英語の自習学修ツールの導入

英語自学自習ツール（ATR）を引き続き導入しました。

③ 語学補習講座のオンライン開講

IELTS（英語）、HSK（中国語）、ハングル検定（韓国語）の補習講座をオンラインで開講しました。

④ 貴重書庫改修

庫内環境安定化のための壁面改修および換気システム導入等、貴重書庫の改修を行いました。

⑤動画配信サーバー・レコーダー更新

授業支援システムのバージョンアップにあわせて、動画配信サーバーのバージョンアップを行いました。

⑥ Mediasiteサーバー強化

バックアップサーバーおよびアップロードされた動画を配信用に変換するJOBサーバーを強化しました。

⑦ 視聴覚機器改修

文学館１F・２Fの中教室の視聴覚機器を改修しました。

⑧ クラブ室エアコン設置

第三体育館クラブ室にエアコンを設置し、2021年度で全クラブ室のエアコン設置を完了しました（※2021年度の事業計画）。

広報関係

①本学公式サイト内コンテンツ

- オウンドメディア「わからないから、おもしろい。」で、さまざまな視点から、教員の研究・活動、卒業生、学生の活動や取り組みなどの「本学の今」を発信しました（※2021年度の事業計画）。
- 卒業生の活躍を紹介する本学公式サイト内コンテンツ「Stories」に、新たに3名の卒業生のストーリーを追加しました。

② 交通広告他の掲示

- 阪急西宮北口駅構内に看板広告を掲出しました（今津線宝塚方面行き降車ホーム）。
- 入試への出願促進およびオープンキャンパスへの集客を目的に、阪急電鉄の車内ドア横に広告を掲出しました（2021年12月）。

③ 各学科ホームページサイト

心理・行動科学科は資格関連紹介ページを充実させ、環境・バイオサイエンス学科は教職関連情報の充実と学修内容をわかりやすくした新しいコンテンツを追加しました。

社会連携の強化関係

①高大連携

本学と仁川学院高等学校において、教育に係る交流を通じて両校の教育を相互に活性化させるために2021年12月22日に高大連携に関する協定書並びに覚書を締結しました。

②地域連携

- 英語科教職課程を履修する英文学科4年生がこれまでに引き続き2021年度も、西宮市内の小学校（山口小学校・西宮浜義務教育学校）にて外国語教育のボランティア活動を行いました。
- 中学校3年生の生徒に、子どもの外国語習得についての講義（遠隔）を実施し、生徒のプロジェクト（外国語習得）に協力しました。
- 英文学科 通訳・翻訳プログラム主催の高校生向けワークワークショップ『使ってみがこう英語力』をオンラインで開催しました。
- 人間科学部の教員が、学内外で講演会や研修会等を、遠隔を含め、計34回実施しました。

③産学連携

- スミリンケアライフ株式会社が運営するサービス付き高齢者向け住宅「エレガーノ西宮」にて、音楽学部学生と教員による同施設のオープン記念コンサート（延期になっていたもの）他、4回のコンサートを開催しました。
- 総合文化学科3、4年生5名が、日経STEAMプロジェクト「UCC STEAMゼミ：高校生・大学生とともに考えるコーヒーの持続可能な未来」に参加しました。
- 大阪ガス都市開発と本学がコラボ企画を実施し、本学の学生20名が「住みたい学生レジデンスと共感する広告」をテーマに2日間にわたりワークショップを行いました。

④ 音楽によるアウトリーチ

音楽によるアウトリーチは、社会の様々な分野に開くことによって、学生の主体的な学びを促そうとするものです。2021年度は演奏派遣を2回、子どものためのコンサートを２回開催しました。

⑤地域創りリーダー養成プログラム

地域の課題を見つけ解決策を探り実行する地域創りリーダー養成プログラムは、４つの班に分かれ、地域の小学校、NPO法人、企業や西宮市教育委員会等の協力を得て実施しました。

中高部
年間行事の実施状況について

授業関係

年間通じて平常授業の実施

学校行事関係（実施できた行事）

下記の行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限の注意を払いながら、実施することが出来ました。

4月　●J1オリエンテーションキャンプ・デイキャンプ
●中学部・高等学部入学式　●始業式　●健康診断　●新入生歓迎会

5月　●中間テスト　●体育祭予行　●S文科系クラブ発表会

6月　●人権学習会①　●体育祭　●期末テスト

7月　●期末テスト　●J・S校内大会　●キャリアガイダンス①　●終業式

8月　●エンパワーメント　●バーチャルオーストラリアスタディー（オンライン）
●リーダーシップトレーニングキャンプ　●始業式

9月　●文化祭　●防災訓練　●芸術鑑賞会　●中学部入試説明会（オンライン）

10月　●遠足（S3）　●修学旅行（S2）　●一泊研修旅行（S1）　●小旅行（J3）　●遠足（J2）　●遠足（J1）

11月　●宗教強調週間　●キャンパス見学会①・②　●授業参観日　●人権学習会②

12月　●期末テスト　●S聖なる集い　●Jもみの木の集い　●クリスマス礼拝　●終業式

1月　●始業式　●中学部入試

2月　●人権学習会③

3月　●S卒業式　●キャリアガイダンス②　●J卒業式　●終業式

実施できなかった学校行事

●宗教部主催「リベラルアーツプログラム」（広島・長島愛生園訪問、白浜訪問、釜ヶ崎訪問）
●春の遠足　●夏山登山　●愛校バザー　●文楽鑑賞教室（J2）　●英語劇（J3）

法人
新型コロナウイルス感染関連

危機管理関係

危機管理委員会の開催

危機管理委員会を年間12回開催し、学院の活動基準の設定・見直しを随時行い、大学・中高部における対応の検討、教職員の感染防止対策等を協議しました。

感染拡大防止対策関連

新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施

2021年8月30日から10月8日の平日20日間、卒業生の医療従事者で構成する「ＫＣメディカル」及び本学教職員等の協力のもと、第３体育館を会場として新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施しました。学生、生徒、教職員とその家族、めぐみ会関係者、及び近隣住民を対象として、約2,000人、延べ4,079回の接種を行いました。

財務関係

- 新型コロナウィルス対応のための経費支出については、必要性を確認しつつ迅速な予算化を図りました。
- 新型コロナウィルスによる学院財政への影響について、適宜理事会に報告を行いました。

新型コロナウイルス感染関連以外

創立150周年関係

創立150周年ロゴマーク受賞者表彰式を実施

2021年3月に「創立150周年ロゴマーク」が決定し、最優秀賞、優秀賞に選ばれた4名の方の表彰式を、2021年12月10日に開催しました。

財務関係

①経費支出の適正な管理

学院の収支が赤字となることが見込まれる中、各部署に経費の削減を要請するなど、経費支出の適正な管理に一段と心掛けました。

②資産運用関係

過去の比較的高い利回りの金融資産を温存しました。新規の運用については、超低金利下で収益性と安全性を両立できる運用対象が見つからず、控えざるを得ませんでした。この結果、金融資産からの運用益は低水準のまま推移しました。

③キャンパス再整備マスタープラン関係

学院の収支が赤字となることが見込まれ、資金面の検討が難しかったこと等により、計画は凍結されました。

④旅費規程の見直し

2020年度に検討することとしていた旅費規程の見直しについては、2021年度も関係部署が新型コロナウィルス対応で多忙であったこと等から、検討を進めることは出来ませんでした。

施設関係

①キャンパス再整備マスタープラン関係

- 2021年7月末に「キャンパス再整備マスタープラン」が提出された後、施設建築に対するニーズを再度確認し、関係部署へのヒアリングを行い、創立150周年に向けて実施可能な事業計画についての追加検討を進めました。

②学院施設の充実

- 豪雨時に漏水が生じる新社交館の経年劣化した屋上の防水層を全面改修しました。
- 講堂の舞台装置のうち設置後40年以上経過する吊り物機構を安全機能付き機器に更新、またホリゾント幕とスクリーン、ウインチも併せて更新しました。
- 精密点検において動作不良が判明した学生寮系統のキュービクル高圧機器を予防保全の観点から更新しました。
- 機器不良が生じる都度、真空引き等の修理対応で運転を維持している理学館、音楽館（音楽学部1号館）の空調熱源（冷温水発生器）を更新しました。
- 火災予防の取組として、設置後20～30年が経過する自動火災報知設備を更新しました。また茶室「松風庵」は貴重な木造建造物であることから自動火災報知設備を自主設置しました。
- イライザ・タルカット記念館の外装改修は2017年度から順次、各面の壁とサッシ等の補修を行って参りましたが、最後に東面の補修を行うことで一連の計画を終了しました。

③重要文化財保存活用関係

- 社交館の経年劣化した屋上防水層の全面改修を行いました。
- 理学館は豪雨時に小屋裏内に漏水被害が生じ木部の腐朽が懸念されるため、瓦の下地状況を確認した上、承認を得た修理工法にて調査範囲について先行修理を実施しました。なお、本修理は2023年度までの継続事業を予定しています。
- 体育館（第一体育館）のアリーナ天井仕上げ材（※当初材の大判テックス）が1枚、無人時に剥落していた状況が確認されたことから、緊急落下防止対策工事を計画し、特注の押え金物取付けと併せて延焼防止のための難燃塗装を施すことで施設の安全性を向上させました。

Topics 1

「本当に強い大学 2021」で上位にランクイン！

週刊東洋経済の臨時増刊「本当に強い大学 2021」において、本学が今年も上位にランクインしました。本学がランクインした項目は右の通りです。

総合ランキングを構成する各種指標の中で、教員1人当たり学生数（5.3人）、上場企業役員数（7人）、そして外国人教員比率（13.3%）は本学の特色や強みを表す指標です。

総合ランキング

関西の私立大で**22**位
関西の私立女子大で**3**位（全国では162位）

有名企業400社への実就職率が高い大学ランキング

関西の私立大で**5**位
関西の私立女子大で**1**位（全国では69位）

Topics 2

仁川学院高等学校と高大連携に関する協定を締結

神戸女学院大学と仁川学院高等学校（兵庫県）は、教育に係る交流を通じて両校の教育を相互に活性化させるために2021年12月22日（水）に高大連携に関する協定書並びに覚書を締結いたしました。

これにより、2022年度より仁川学院高等学校が実施する高大接続講座への本学からの講師派遣が開始され、両校の学生、生徒及び教員の相互交流を深めてまいります。

中野学長コメント

このたびの連携を大変嬉しく存じます。双方の教育や研究等の充実を期待すると共に、ご近所である利点も活かした活発な交流ができることを願っています。

Topics 3

留学生バディによるオンラインアクティビティ

国際交流センターでは、海外からの留学生が日本で実りあるキャンパスライフを送ることができるように日常生活をサポートする「留学生バディ」を毎年募集しており、2021年度も活動いたしました。

コロナ禍においては、留学生が日本に来ることが困難なため、留学生バディたちはオンラインで活動を行いました。その活動の一環としてオンラインアクティビティを月に1回行っており、6月28日（月）はアメリカからの留学生と、6月29日（火）は韓国からの留学生とそれぞれオンライン上で交流を行いました。

アメリカの留学生とは「折紙」をテーマに、参加した学生がそれぞれ留学生に折紙を伝授しました。留学生も折紙が得意だったようで、逆に学生たちが作り方を教えてもらうという場面もありました。

韓国の留学生とは「絵しりとり」をテーマに、絵でしりとりを行いました。最後には各自が描いた絵でもっともうまい絵を選ぶことになり、留学生の絵が選ばれました。その後も様々なゲームで盛り上がりました。

学生の留学への送り出し・海外からの留学生の受け入れが困難な状況ではありますが、国際交流センターでは海外の学生と交流できるような機会をオンライン上で提供しています。

Topics 4

「『神戸女学院の100冊』書評コンテスト」表彰式を行いました

本学では、自分の専門分野にとどまらず、さらに関心を広げて学ぶための基本となる図書を「神戸女学院の100冊」として推薦しています。

そして、その中から1冊を選んで書評を書く「『神戸女学院の100冊』書評コンテスト」を、本学学生を対象に行っています。

1月14日（金）の新年礼拝後、その表彰式が行われました。式では4名の受賞者に中野敬一学長より表彰状が手渡され、また立石副学長からは受賞作品に関する講評がありました。

Topics 5

学生が小学生向けに外国語教育のボランティア活動を行っています

英語科教職課程を履修する英文学科4年生がこれまでに引き続き2021年度も、西宮市内の小学校（山口小学校・西宮浜義務教育学校）にて外国語教育のボランティア活動を行いました。

12月21日（火）には、山口小学校にて1年生と2年生対象に活動を行いました。内容は12月ということもあり、「クリスマスに関する単語を学習しよう」をテーマに、小学生たちに向けて英語に親しんでもらう授業を行いました。サンタクロースやクリスマスツリー、トナカイ、そり、プレゼント等のピクチャーカードを用意。小学生たちは最初にそれらの単語を学びました。

その後、小学生たちが習った単語のシールをこちらで用意し、各児童がビンゴカードを作成。そしてビンゴゲームの開始。ビンゴを達成した児童がたくさん出て、全員にシールをクリスマスプレゼントとして渡すことができました。

最後には、"We Wish You a Merry Christmas"を歌い、季節感のある外国語活動の時間となりました。

この取り組みは地域貢献の一環として2010年から行われており、今後も本学の伝統である英語教育を通じて地域へ貢献していきます。

Topics 6

本学の学生が落語家への道を歩み始めました！

英文学科4年生の学生が、六代目桂文枝師匠に弟子入りしました。11月30日（火）には天満天神繁昌亭で初舞台を踏みました。

これからは「桂　文りん（かつら　ふみりん）」として落語家の道を歩み始めます。

※この学生は小学校3年生から「英語落語」を始め、「ぷりん亭芽りん」の高座名で活動してきました。

Topics 7

音楽学部ウインドオーケストラのCDがリリース！

6月4日（金）、音楽学部ウインドオーケストラが、初となるCDをリリースしました。CDはワコーレコードより発売されています。

大手出版社ハル・レオナード・ヨーロッパとのタイアップにより、世界的に著名な作曲家の新譜と日本初演権の提供が実現し、記念歌を含む全11曲を収録しました。

2019年度に音楽学部の新規授業科目としてウインドオーケストラを立ち上げましたが、指導する教員は、単に演奏会を行うだけではなく、やりがいがあるプロジェクトを通して学生が有意義な経験を得られるものにしたい、という想いがありました。その中から生まれた計画のひとつが、今回のCDリリースでした。

コロナ禍でも感染対策を行いながら、3回のレコーディングを本学内で行い、無事にすべての録音が完了し、CDをリリースすることが出来ました。録音された楽曲はApple Music で配信している他、一部の曲はハル・レオナード・ヨーロッパのアルバムに収録されKobe College Wind Orchestraの演奏として、ヨーロッパ、アメリカ、日本、アジア諸国にリリースされました。

また9月23日（木・祝）には、CD発売を記念してエミリー・ホワイト・スミス記念講堂にて特別演奏会を開催しました。

Topics 8

オープン記念コンサートが開催されました

8月2日（月）、スミリンケアライフ株式会社が運営するサービス付き高齢者向け住宅「エレガーノ西宮」にて、音楽学部の学生と教員による同施設のオープン記念コンサートが開催されました。

スミリンケアライフ社と本学は2020年3月に産学連携を締結しました。本来であれば「エレガーノ西宮」がオープンした2020年5月にオープン記念コンサートを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていました。

当日は松浦修音楽学科准教授による指揮のもと、管楽器や打楽器を専攻する学生12名が演奏を行い、ご参加いただいたご入居者の皆様と楽しいひと時を過ごすことができました。

当日はNHK神戸放送局が取材に訪れ、同日夕方の情報番組「Live Love ひょうご」でコンサートの模様が放送されました。

Topics 9

本学教員の作品が東京2020パラリンピック開会式で使用されました

8月24日（火）から9月5日（日）まで開催された「東京2020パラリンピック競技大会」の開会式で、天皇陛下と国際パラリンピック委員会（IPC）会長の入場曲に、八木澤教司音楽学科専任講師が作曲した「ファンファーレ」が使用されました。

Topics 10

本学学生のデザインが出版社に採用されました！

音楽学科3年（クラリネット専攻）の稲葉彩萌さんが作成したデザインが、吹奏楽曲の出版社「ウインドアート出版」の創立20周年記念マグカップに採用されました。

この学生が受講するウインドオーケストラの授業では、八木澤教司音楽学科専任講師が「音楽だけではなく他のジャンルに幅広く興味を持つことの大切さ」を伝えていますが、高校生のときにデザイン科で学んでいた稲葉さんはその言葉を受けて、今回あらためてデザインと向き合いチャレンジしました。

Topics 11

本学教員が日本遊戯療法学会奨励賞を受賞

心理・行動科学科の國吉教授、須藤准教授が日本遊戯療法学会誌『遊戯療法学研究』に掲載した論文が2020年度学会奨励賞を受賞しました。

受賞論文タイトル

「過剰適応の日本人母子を対象とした『親子相互交流療法』（PCIT）の事例」

本学心理相談室では、2013年より親子相互交流療法（PCIT）を関西で初めて導入しました。また、全国の他大学院に先駆け、2019年よりPCITセラピストの養成を大学院授業内で展開しています。

Topics 12

こども達と高齢者の方々をつなぐ花束と音楽の贈り物

地域創りリーダー養成プログラムの西宮浜班が、地元のこども達とお年寄りをつなぐイベントを行いました。西宮浜義務教育学校１～４年生の児童の皆さんが描いてくれたお花の絵を、大きな花束のポスターにして特別養護老人ホーム「西宮恵泉」のお年寄りの方々に贈りました。コロナ禍で人と人とのつながりが薄れるなか、学生達はみんなの心が暖まって笑顔になれるような活動を目指しています。西宮浜義務教育学校と西宮恵泉は阪神高速湾岸線を挟んでお向かいの位置にあり、これまでも様々な交流を重ねてきました

が、今はコロナがその間の壁を高くしています。こども達による色とりどりの花束に加えて、西宮浜の丘のある街で昨年行われたクラップサックスカルテットによる、映画の主題歌を中心とした心暖まる演奏会のビデオを添えました。クラップサックスカルテットさんも「サックスの音色でリフレッシュしてもらえたり、笑顔になっていただけたら…」といった、西宮浜班と同様の思いを共有して活動されています。

西宮浜班は、街のみどころを盛り込んだサイクリング＆ウォーキングマップの作成も企画しており、西宮浜の街の活性化を目指して今後も積極的に活動していきます。

Topics 13

「令和3年度日本環境毒性学会研究発表会」において、本学大学院生が若手研究奨励賞を受賞

8月26日(木)、27日(金)にオンラインで開催された「令和3年度日本環境毒性学会研究発表会」において、本学大学院 人間科学研究科の大学院生が若手研究奨励賞を受賞しました。

受賞対象となった研究発表は、「ジクロフェナク曝露メダカにおける透明骨格三重染色及び網羅的遺伝子発現解析における下顎欠損誘発機序の解明」です。河川に流出している解熱鎮痛剤ジクロフェナクは、魚類の下顎を欠損させる毒性作用を有していますが、その誘発メカニズムは不明でした。この研究では、細胞染色手法の新規開発及び網羅的遺伝子発現解析により、そのメカニズムの一端を明らかにしました。

Topics 1

芸術鑑賞会

2021年度の中高部芸術鑑賞会は、演劇集団「風」による『Touch～孤独から愛へ』を鑑賞しました。

劇団「風」は以前、『ヘレンケラー』を鑑賞し、力あるパフォーマンスに圧倒されたという感想を多く耳にしていたこともあり、再びお願いしました。コロナ禍の観劇ということで座席の間隔をあけ、中学部・高等学部別の２回公演としました。その劇場空間の隙間を埋めるべく、演者及びスタッフの皆さんの迫力ある演技と演出に、午前の高等学部生徒、午後の中学部生徒共に大いに魅了されました。孤児の兄弟と謎の紳士が寄り添い、心を通わせていく物語の中、紳士ハロルドが２人の孤児、不良の兄トリートとアレルギー体質の弟フィリップの肩に手を置く場面が何度も登場します。まさにタイトルの「Touch」によるぬくもり、安らぎによって、閉ざされた心が解放されていくのです。

現在私たちはマスクごしに他者を見つめ、中学部の１年生及び２年生は入学してから互いの生の表情に触れたことがありません。ソーシャルディスタンスが叫ばれ、握手もひじやこぶしで行い、食事も同じ方向を見ながら黙食です。こうした異常な状況だからこそ、この作品に込められたメッセージはより真実味をもって伝わったのではないかと考えます。

Topics 2

高等学部2年修学旅行報告

高等学部2年は10月4日(月)から7日(木)まで、3泊4日で兵庫県県内旅行に行って参りました。参加生徒は138名、付き添い教員7名、看護師1名、名鉄観光から添乗員3名でした。

１日目は班別の淡路自主研修として、「じゃのひれアウトドアリゾート」、「ニジゲンノモリ」、「ウェルネスパーク五色」の中から希望したコースに分かれて行い、「うずしおクルーズ」を共通のプログラムとして行いました。

２日目は学年全体での観光として、午前中は竹田城で城址見学をしました。その後、出石に移動して自由散策をしました。

３日目は、班別の城崎自主研修として、「城崎マリンワールド」、「城崎温泉街と玄武洞公園・玄武洞ミュージアム」の２つのコースに分かれて行いました。

最終日は学年全体での観光として、午前中は生野銀山で坑道、資料館を見学しました。その後、丹波篠山へ向かい自由散策をし、帰路につきました。

感染症対策として、密を避け、学年全体が集まって行動する機会をなるべく少なく設定した旅行でした。体調を大きく崩す生徒もなく、全行程を天候に恵まれた中、予定通り進めることができました。

Topics 3

中高部文化祭

2021年度は9月10日(金)、11日(土)の2日間の日程で文化祭を開催しました。例年校外用文化祭として実施している2日目に、在校生の保護者と本校を志望している小学生とその保護者に来ていただく予定でしたが、文化祭の直前に非常事態宣言が再び発令されたため、2日間とも校内用として実施することになりました。学外の方に見ていただくことができなかったのは残念ですが、プログラムとしてはかなり例年に近い形で行うことができました。コロナ禍で先が見通せない中、直前まで変更が加わることを予想して、パンフレットの別冊を作成したり、一般公開向けのジョガコレや探究発表のスピーチが中止となったことから、全校特別企画「コロナとココロ」で、コロナを乗り越えてこれからの希望を記す場を設けたり、といった今年ならではの取り組みも見られました。講堂に全校生が一時に入ることができず、コムホールやLL教室などでリモート配信をしましたが、最後には全員揃ってグラウンドに集まり、共に文化祭エンディングプログラムを楽しむことができました。様々な制約が次々と課せられるような状況でしたが、その中でも最大限楽しむことができるよう工夫が凝らされていました。

Topics 1

正門南西部の門柱を整備し歴史的価値を次代へ承継

歴史的価値のある神戸山本通時代の北門（門柱古材）を保存修理の上、正門南西部の通用門として整備しました。

▲ 整備前の通用門

▲ 新たに整備された正門南西部の通用門

Topics 2

万葉池の砂防工事と樹木伐採で通学路の安全確保と景観を回復

正門からの通学路の安全確保と景観の回復を目指し、万葉池上流部からの土砂流入防止のために砂防堰堤を新設、併せて池底の浚渫と周囲に生い茂った実生樹の除伐を実施しました。

▲ Before/整備前

▲ after/整備後

Topics 3

キャンパス配置図を刷新し構内サイン類を充実

昨年度からの取組である構内サイン類の更新として、2021年度は正門守衛室前とデフォレスト記念館奥のキャンパス配置図を刷新し、見易さとデザインの向上に努めました。

▲ 正門守衛室前

▲ デフォレスト記念館奥

神戸女学院 基本データ

入学定員・収容定員・在籍者数（2021年5月1日現在）

神戸女学院大学

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学部	英文学科	150	93	600	591
	総合文化学科	200	176	800	879
計		350	269	1,400	1,470
音楽学部	音楽学科	46	42	186	155
		(編入)1	0		
計		47	42	186	155
人間科学部	心理・行動科学科	90	90	360	427
	環境・バイオサイエンス学科	80	78	320	352
計		170	168	680	779
大学 計		567	479	2,266	2,404

神戸女学院大学大学院

			入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学研究科	英文学専攻	博士前期課程	13	0	26	2
		博士後期課程	2	0	6	0
	比較文化学専攻	博士前期課程	5	1	10	4
		博士後期課程	2	1	6	2
計			22	2	48	8
人間科学研究科	人間科学専攻	博士前期課程	10	10	20	22
		博士後期課程	2	0	6	2
計			12	10	26	24
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	修士課程	7	5	14	16
大学院 計			41	17	88	48

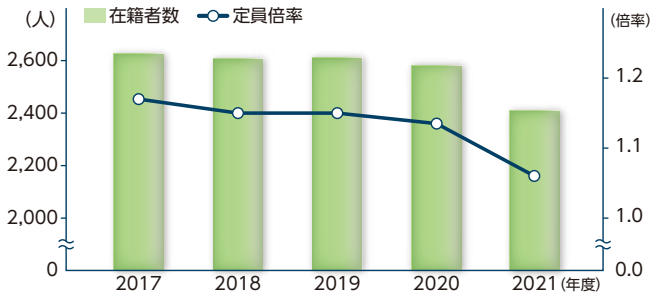
神戸女学院中高部

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
中学部	135	143	405	430
高等学部　全日制課程　普通科	—	—	405	424
中高部 計	135	143	810	854

在籍者数推移

神戸女学院大学

学部名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
文学部	1,657	1,658	1,637	1,614	1,470
音楽学部	177	170	170	159	155
人間科学部	792	779	803	812	779
計(A)	2,626	2,607	2,610	2,585	2,404
定員(B)	2,246	2,256	2,266	2,266	2,266
(A)/(B)	1.17	1.15	1.15	1.14	1.06



神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
文学研究科	21	23	14	14	6
人間科学研究科	22	17	20	23	22
音楽研究科	15	11	12	18	16
計	58	51	46	55	44

博士後期課程

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
文学研究科	2	1	3	2	2
人間科学研究科	0	2	4	3	2
計	2	3	7	5	4

神戸女学院中高部

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
中学部	426	435	437	437	429
高等学部	413	413	414	415	423
計	839	848	851	851	852

志願者数・合格者数・入学者数

神戸女学院大学　今年度の傾向

2022年度入試においては、ほとんどの入試制度で昨年度に引き続き志願者が減少しました。
18歳人口の減少や新型コロナウィルス感染の影響も志願者減少の要因の一つになったと考えられ、最終的な入学者数も前年度を割る結果となりました。

神戸女学院大学

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	4,038	4,284	3,853	2,362	1,892
合格者数	1,377	1,562	1,632	1,270	1,466
入学者数	627	647	623	479	454

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	30	42	46	30	37
合格者数	21	25	28	16	26
入学者数	17	24	26	16	26

博士後期課程

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	2	4	1	2	1
合格者数	2	4	0	1	1
入学者数	2	4	0	1	1

入試制度別状況

			志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率
一般選抜	前期A日程	3科目型	218	213	185	1.2
		2科目型	257	253	226	1.1
		音楽学科	16	16	16	1.0
	前期B日程		229	221	189	1.2
	前期C日程		173	59	53	1.1
	前期D日程	共通テスト1科目型	62	16	12	1.3
		共通テスト2科目型	44	13	11	1.2
大学入学共通テストを利用する入学試験	前期日程	2科目型	105	102	86	1.2
		3科目型	95	95	75	1.3
		4科目型	39	39	27	1.4
	後期日程	2科目型	17	17	15	1.1
		3科目型	9	9	6	1.5
		4科目型	7	6	4	1.5
一般選抜　後期日程			31	21	18	1.2
学校推薦型選抜（公募制）			396	392	351	1.1
総合型選抜			32	32	30	1.1
帰国子女入学試験			1	1	1	1.0
社会人入学試験			0	—	—	—
外国人留学生入学試験			0	—	—	—
編入学試験			1	1	1	1.0
国際バカロレア入学試験			0	—	—	—

神戸女学院中学部　今年度の傾向

今年度も引続き新型コロナ禍が続いた1年でしたが、2022年度入試も昨年度に引続き万全の感染症予防対策の下、無事に終了する事ができました。昨年度はコロナ禍の中でも志願者数が前年度比25名増加しましたが、今年度は逆に43名も減少した結果につきましては自然減少的なものとは分析するものの、次年度挽回するよう鋭意努力する所存であります。入試自体の傾向としましては、遠隔地からの受験者数、受験者層は従来どおりの安定した傾向でありました。

神戸女学院中高部

中学部

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	249	262	240	272	229
合格者数	159	155	153	154	154
入学者数	149	145	143	145	143
転入学者数	—	—	—	—	—
編入学者数	—	—	—	—	—

高等学部

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
編入学者数	1	—	—	—	—

＊高等学部　全日程課程　普通科　募集なし

留学状況

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院

2021年度も、前年に引き続いてコロナ禍のために多くの国際交流関連事業、特に渡航を伴うものを中止せざるを得ないという厳しい状況が続き、代替策としてオンライン留学・語学研修を実施しました。しかし、ようやく2022年度は留学生派遣・受入れの再開に漕ぎつけられそうな見通しです。一方でコロナ禍による不安定な状況が完全に払拭できたわけではなく、従って引き続き必要に応じて適宜オンラインによる留学・語学研修を活用していきたいと考えています。

▶ 本学から海外へ

【派遣留学／中期英語留学／中期海外研修】　韓国・徳成女子大学1名（渡航による留学）

【認定留学】　オーストリア・モーツァルテウム音楽大学2名（渡航／オンライン留学 各1名）

【夏期・春期語学研修（※すべてオンライン）】

夏期11名（米国・昭和ボストンインスティテュート4名、カナダ・ヨーク大学５名、豪州・西オーストラリア大学2名）

春期29名（米国・カリフォルニア大学アーバイン校3名、英国・ヨーク大学4名、韓国・梨花女子大学6名、中国・広東外語外貿大学16名）

▶ 海外から本学へ

【留学生受入れ（※すべてオンライン）】

前期２名（米国・ワイオミング大学、韓国・徳成女子大学　各1名）

後期４名（米国・ワイオミング大学1名、英国・イーストアングリア大学2名、韓国・徳成女子大学1名）

神戸女学院中高部

本学から海外へ

プログラム	学校名	国名	人数
交換留学			
		計	0

海外から本学へ

国名	人数
韓国	1
カンボジア	1
計	2

卒業・修了・博士後期課程単位取得退学、博士学位授与の状況

神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部		計
	英文学科	総合文化学科	音楽学科	心理・行動科学科	環境・バイオサイエンス学科	
2017年度	167	216	32	95	95	605
2018年度	171	214	48	87	88	608
2019年度	168	223	44	97	79	611
2020年度	162	225	45	108	89	629
2021年度	157	224	23	107	84	595

＊前期末（当該年度９月）卒業を含む

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科		音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	音楽芸術表現専攻	人間科学専攻	
2017年度	4	0	8	11	23
2018年度	8	2	6	9	25
2019年度	5	1	4	7	17
2020年度	4	3	7	11	25
2021年度	2	2	11	11	26

＊前期末（当該年度９月）卒業を含む

博士後期課程

博士後期課程単位取得退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2017年度	1	—	—	1
2018年度	—	—	—	0
2019年度	1	—	—	1
2020年度	—	—	—	0
2021年度	—	—	—	0

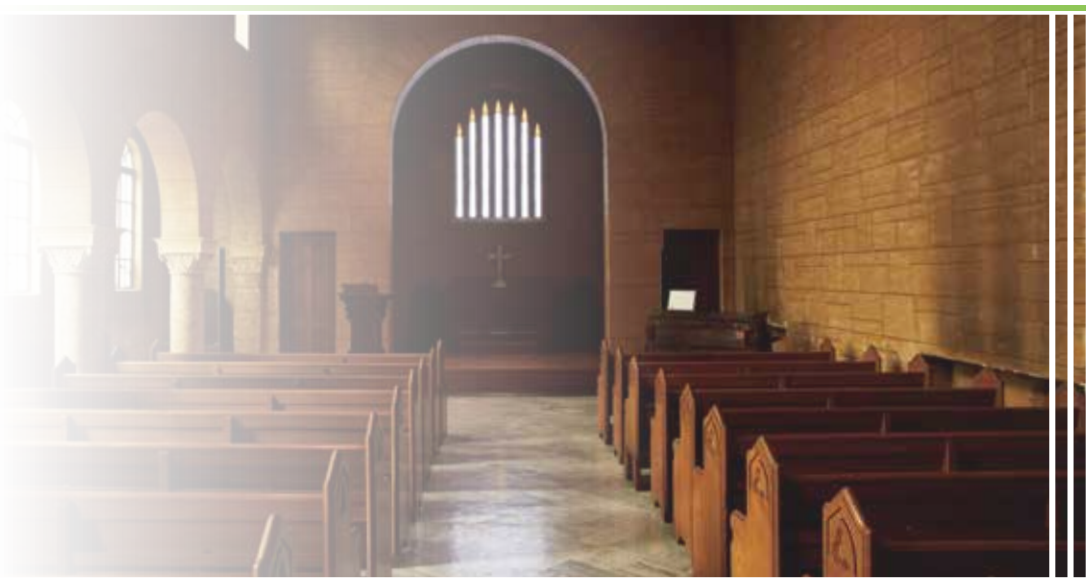
博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2017年度	—	—	—	0
2018年度	—	—	—	0
2019年度	—	—	—	0
2020年度	—	—	—	0
2021年度	—	—	—	0
博士後期課程設置当初からの累計	9	2	13	24

神戸女学院中高部

	中学部
2017年度	139
2018年度	142
2019年度	143
2020年度	149
2021年度	145

	高等学部
2017年度	138
2018年度	134
2019年度	139
2020年度	136
2021年度	135



就職・進学状況

神戸女学院大学

2021年度の就職活動は、コロナ禍2年目となりオンライン採用が広く普及した年となりました。オンライン化によって時間を有効活用し複数の企業説明会に参加できるなどのメリットがある一方、留学や課外活動であるアルバイト、部活動などが引き続き制限され、学生自身がアピールしたい事柄も見直さざるを得ない状況でした。その中で、当年度の就職率（就職希望者に対する就職者の比率）は98.8％で、前年度を0.3ポイント上回り、コロナ禍の中でも高い数値を確保できました。産業別では医療・福祉の比率が増加しました。大学院進学者数は36名となり昨年より大幅に増加しました。

主な就職先（2022年3月卒業生）

建設業
一条工務店
積水ハウス
大和ハウス工業

製造業
オムロン
共立製薬
杏林製薬
極東開発工業
小岩井乳業
三栄源エフ・エフ・アイ
住友電気工業
TASAKI
タマノイ酢
東芝エレベータ
ハイレックスコーポレーション
パナソニック
YKK AP

情報通信業
NHK高松放送局
宮城テレビ放送
セコムトラストシステムズ
T&D情報システム
トランスコスモス
日本ヒューレット・パッカード
富士通ITマネジメントパートナー

運輸業、郵便業
AIRDO
NX・NPロジスティクス
川西倉庫
後藤回漕店
ジェイアール東海パッセンジャーズ
住友倉庫
日本通運
日立物流西日本
福山通運
三井倉庫ホールディングス
日本郵便

卸売業、小売業
エノテカ
岡本無線電機
川重商事
キヤノンシステムアンドサポート
クリヤマジャパン
サンセイテクノス
シャープマーケティングジャパン
住友商事マシネックス
ダイワボウ情報システム
トラスコ中山
ナブコドア
日伝
布亀
三菱食品
ヤンマーグローバルCS
リコージャパン
アーカー
ウエルシア薬局
スギ薬局
メガネトップ
ルイ・ヴィトン ジャパン

金融業、保険業
三菱UFJ銀行
三井住友信託銀行
池田泉州銀行
紀陽銀行
但馬銀行
北陸銀行
ろうきん中央機関グループ
大阪シティ信用金庫
大阪信用金庫
尼崎信用金庫
西兵庫信用金庫
日新信用金庫
播州信用金庫
姫路信用金庫
兵庫信用金庫
きのくに信用金庫
広島信用金庫
共栄火災海上保険
住友生命保険
大樹生命保険
日本生命保険
明治安田生命保険
大阪北部農業協同組合
兵庫西農業協同組合
全国労働者共済生活協同組合連合会
東海東京フィナンシャル・ホールディングス
野村證券
MSK安心ステーション
MS&AD事務サービス
東京海上日動事務アウトソーシング
日興ビジネスシステムズ
三井住友トラスト・ビジネスサービス
明治安田オフィスパートナーズ
オリエントコーポレーション

不動産業、物品賃貸業
ジェイアール西日本総合ビルサービス
住友不動産販売
住友三井オートサービス
セキスイハイム近畿
パナソニックホームズ不動産
阪急阪神ビルマネジメント
三井不動産リアルティ
三菱UFJ不動産販売

宿泊業、飲食サービス業
パレスホテル
星野リゾート
ホテルモントレ
三井不動産ホテルマネジメント
リゾートトラスト

教育、学習支援業
ABC Cooking Studio
NOVAホールディングス
ヒューマンアカデミー

医療、福祉
国立病院機構近畿グループ
社会保険診療報酬支払基金
日本年金機構
日本赤十字社兵庫県支部
社会福祉法人加東市社会福祉協議会
社会福祉法人西宮市社会福祉協議会

サービス業
旭化成アミダス
エイチアールワン
NTTファシリティーズ
ジェイアール西日本ウェルネット
生活協同組合コープこうべ
セコム
綜合警備保障
テイクアンドギヴ・ニーズ
PwCコンサルティング合同会社
郵船コーディアルサービス
吉本興業ホールディングス

公務
厚生労働省 兵庫労働局
国土交通省 近畿地方整備局
防衛省 航空自衛隊
大阪府
大阪府警察
大阪市
加古川市
たつの市
姫路市
和歌山県

備　考
- 前期末卒業を含まない
- 就職者／自営業主等（音楽講師等、自営とみなした者を含む）
  常用労働者（無期雇用労働者、フルタイム勤務相当の有期雇用労働者）
- 社名は、変更されている場合があります

神戸女学院大学

主な進学先（2022年3月卒業生）

学校名
英文学科
神戸女学院大学大学院　文学研究科
明治大学公共政策大学院　ガバナンス研究科
King's College London
総合文化学科
神戸女学院大学大学院　文学研究科
神戸大学大学院　人文学研究科
兵庫県立大学大学院　緑環境景観マネジメント研究科
音楽学科
神戸女学院大学大学院　音楽研究科
心理・行動科学科
神戸女学院大学大学院　人間科学研究科
早稲田大学大学院　環境・エネルギー研究科
立命館大学大学院　人間科学研究科
大阪大学大学院　人間科学研究科
兵庫教育大学大学院　学校教育研究科
環境・バイオサイエンス学科
神戸女学院大学大学院　人間科学研究科
大阪大学大学院　生命機能研究科
奈良先端科学技術大学院大学　先端科学技術研究科
岡山大学大学院　教育学研究科
九州大学大学院　生物資源環境科学府

年度毎の就職決定状況

	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職決定者／就職希望者	進学者数（大学院）	就職決定者／（卒業者-院進学者）
2017年度（2018年3月卒業生）						
英文	165	149	148	99.3%	3	91.4%
総合文化	212	188	185	98.4%	5	89.4%
音楽	32	18	18	100%	4	64.3%
心理・行動	95	80	80	100%	7	90.9%
環境・バイオサイエンス	94	78	77	98.7%	6	87.5%
総計	598	513	508	99%	25	88.7%
2018年度（2019年3月卒業生）						
英文	169	157	156	99.4%	3	94%
総合文化	211	199	196	98.5%	4	94.7%
音楽	47	22	22	100%	7	55%
心理・行動	86	63	61	96.8%	16	87.1%
環境・バイオサイエンス	88	74	74	100%	8	92.5%
総計	601	515	509	98.8%	38	90.4%
2019年度（2020年3月卒業生）						
英文	165	151	149	98.7%	1	90.9%
総合文化	219	203	198	97.5%	1	90.8%
音楽	44	23	23	100%	8	63.9%
心理・行動	95	83	83	100%	5	92.2%
環境・バイオサイエンス	76	68	68	100%	7	98.6%
総計	599	528	521	98.7%	22	90.3%
2020年度（2021年3月卒業生）						
英文	161	136	134	98.5%	3	84.8%
総合文化	223	196	192	98.0%	2	86.9%
音楽	44	27	27	100%	4	67.5%
心理・行動	108	86	84	97.7%	7	83.2%
環境・バイオサイエンス	88	73	73	100%	7	90.1%
総計	624	518	510	98.5%	23	84.9%
2021年度（2022年3月卒業生）						
英文	153	132	131	99.2%	6	89.1%
総合文化	219	190	187	98.4%	6	87.8%
音楽	23	11	11	100%	3	55.0%
心理・行動	105	83	82	98.8%	11	87.2%
環境・バイオサイエンス	83	66	65	98.5%	10	89.0%
総計	583	482	476	98.8%	36	87.0%

神戸女学院中高部

進学状況は非公表

役員・評議員 (2021年5月1日現在)

理 事

第1号理事
院長(理事長) ▶定員1名、現員1
飯　謙

第2号理事
学長 ▶定員1名、現員1名
中野 敬一

第3号理事
中高部長 ▶定員1名、現員1名
森谷 典史

第4号理事
めぐみ会※1 推薦会員で理事会選任
▶定員3名、現員3名
永井 敬子
和氣 節子
松本 眞千子

第5号理事
評議員会選任 ▶定員2名、現員2
伊藤 良子
皆本 礼子

第6号理事
コーポレーション※2 推薦 理事会選任
▶定員3名、現員3名
伊藤 榮子
山内 雅子
溝口　薫

第7号理事
理事会選任学識経験者
▶定員4名、現員4名
柴谷 享一郎
菅根 信彦
佐藤 容子
橋本 惠里子

監事
▶定員2名、現員2名
伊藤 恭子(6月1日就任)
梅田 玲子

評 議 員

第1号評議員
学識経験者(理事会選任)
▶定員11名、現員11名
石井 俊平
フォーリー 淳子
伊藤 良子
関本 雅子
内山 由紀
岡﨑 成子
芹野 與幸
内田　樹
内藤　能
久保田 哲夫
西澤 他喜衛

第2号評議員
卒業生(めぐみ会推薦 評議員会選任)
▶定員8名、現員8名
皆本 礼子
三川 摩子
浦邊 純子
小澤 妙子
大黒 泰子
山内 雅子
杉本 千代子
前田 厚子

第3号評議員
教職員(理事会推薦 評議員会選任)
▶定員8名、現員8名
大澤　香
和氣 節子
溝口　薫
大門 光歩
喜多 牧子
北田 京子
井出 敦子
松永 千香

第4号評議員
コーポレーション推薦 評議員会選任
▶定員4名、現員4名
Rusterholz Andreas Heinrich
田邉　欧
水野 多美
小澤 純子

※1　めぐみ会
正式名称「公益社団法人神戸女学院めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)

※2　コーポレーション
「Kobe College Corporation-Japan Education Exchange」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

教職員 (2021年5月1日現在)

学部・学科		専任教員数				
		教授	准教授	専任講師	助教	計
文学部	英文学科	11	7	1	0	19
	総合文化学科	16	8	1	0	25
音楽学部	音楽学科	9	5	2	0	16
人間科学部	心理・行動科学科	6	5	1	0	12
	環境・バイオサイエンス学科	11	1	2	0	14

	教諭
高等学部	21
中学部	19
計	40

	専任事務職員	契約職員	計
法人	18	2	20
大学	53	5	58
中高部	5	0	5
計	76	7	83

	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週5日	0	0	0
週4日	3	8	11
週3日	1	6	7
週2日	0	3	3
週1日	0	0	0
計	4	17	21

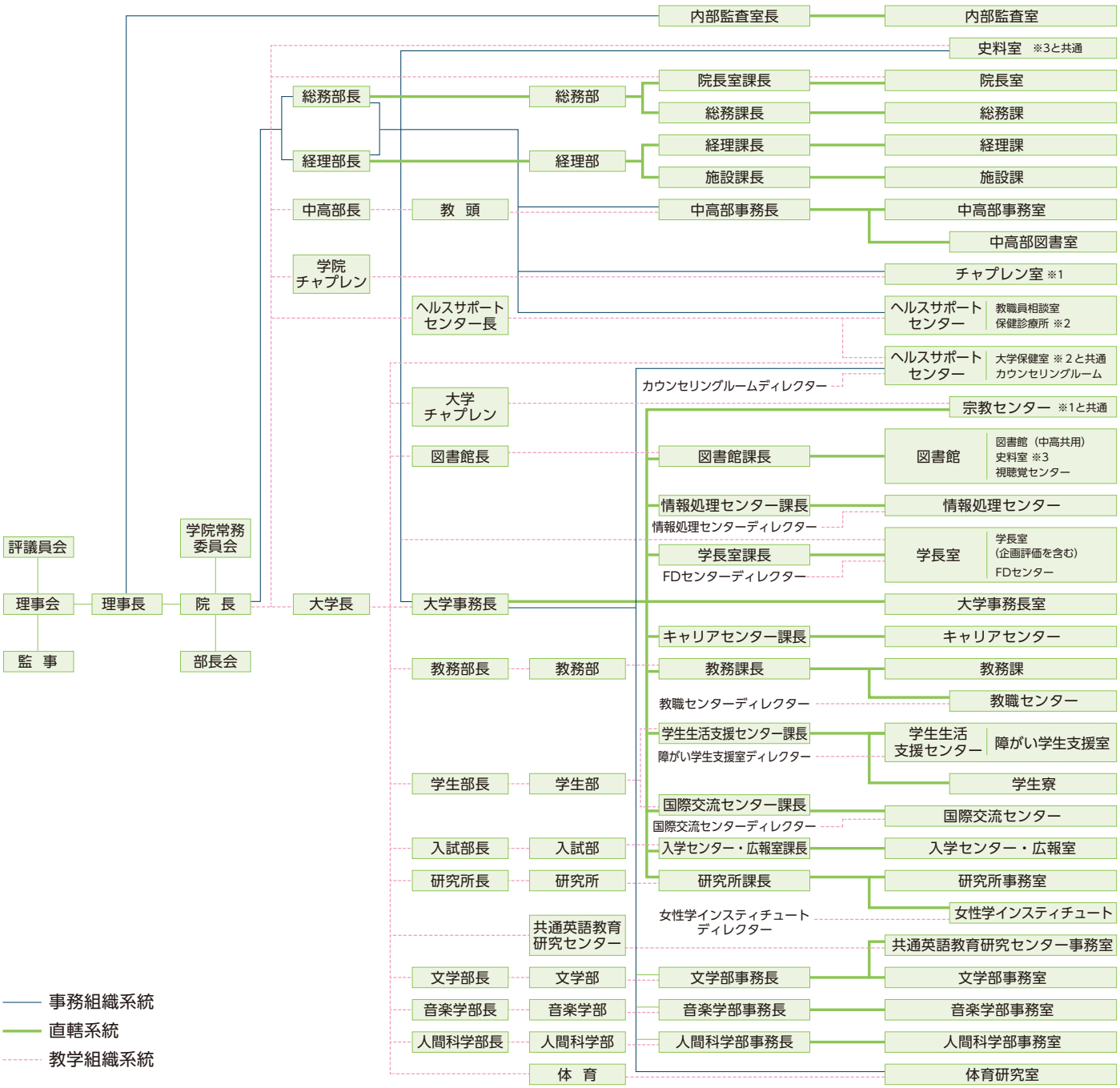
在籍教職員数

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
大学	専任教員	91	84	86	86	86
	非常勤講師	309	362	362	351	355
	大学 計	400	446	448	437	441
中高部	専任教員	42	43	43	42	40
	非常勤講師	16	23	25	27	35
	中高部 計	58	66	68	69	75
計		458	512	516	506	516

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
法人	専任職員※	75	79	84	82	83
	嘱託職員	22	22	20	20	21
計		97	101	104	102	104

※契約職員含む

事務組織図（2021年5月1日現在）



財務の概要 2021年度決算

学校法人会計とは

学校法人とは、学校教育法及び私立学校法の定めるところにより、私立学校の設置を目的として設立された法人です。企業は営利追求を目的としますが、学校法人は永続的な教育研究活動という極めて公共性の高い事業遂行を目的としており、今後の活動を継続的かつ安定的に遂行するため、収支の均衡状況や財政状態を正確に捉えることが重要となります。このように、学校法人と企業とは目的が異なるため、学校法人は企業会計基準とは別の会計基準が必要となります。

一方、国または地方公共団体より補助金の交付を受ける学校法人は、経理内容の透明性・信頼性を確保すべく、「私立学校振興助成法」において、文部科学大臣の定める基準に従い計算書類を作成し、外部監査を受けて所轄庁へ届出することが義務付けられています。

このように、学校法人の目的に合致し、私学助成を受ける学校法人が遵守すべき統一的な会計処理基準として「学校法人会計基準」が定められています。これに従い、本学院も「事業活動収支計算書」「資金収支計算書」「貸借対照表」などの計算書類を作成し公開しています。

2021年度決算について

2021年度は、入学者が479名と前年度に比べて144名の急減となりました。このことにより学納金等が大幅に減少しました。加えて多額のITリプレイスが行われて経費が急増し、学院をあげて節約に努めたものの、経常収支は3億円近い赤字で終わりました。

今後も教育目標を達成するための教育の場であり続けるため、そして何よりも学院の存続をはかるため、財政基盤・収支構造の強化を図ることが緊急の課題となります。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③その他の活動に対応する事業活動の収支出の内容を示し、すべての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするために行うものです。2021年度の事業活動収支計算書の概要は以下の通りです。

教育活動収支差額

教育活動収入は、学校法人の本業である教育活動からの収入です。2021年度の教育活動収入は、48億89百万円で、前年度比1億55百万円の減少となりました。内訳をみますと、学生生徒等納付金38億66百万円は、前年度比2億67百万円の大幅減少です。補助金は、学生数の減少により経常費補助が増加したことを主因に32百万円増加しました。寄付金74百万円は、コロナ禍を理由とした寄付が減少したため6百万円減りました。また、入学検定料の減少により、手数料収入は56百万円と前年度比11百万円減少となりました。一方で、学生寮再開により、付随事業収入は70百万円と前年度比54百万円増加しました。また、私立大学退職金財団等交付金の増加等により、雑収入は2億47百万円と前年度比43百万円の増加となりました。

教育活動支出は、学校法人の本業である教育活動に関する支出です。2021年度の教育活動支出は、52億7百万円で前年度比1億5百万円の増加となりました。内訳をみると、人件費32億17百万円は前年度比68百万円の増加となりました。教育研究経費は16億66百万円で前年度比39百万円の増加となりました。これは、ITリプレイスに伴い業務委託費が1億33百万円増加したほか、コロナ禍がやや収束に向かう中、対面授業が原則となって光熱水費や旅費交通費が増加した一方で、前年度コロナ禍の影響で2億78百万円と多額にのぼった奨学費が減少したことによるものです。管理経費3億24百万円は前年度並みとなりました。

以上の結果、教育活動収支差額は3億18百万円の赤字となりました。前年度比で2億60百万円の赤字幅拡大となっています。

経常収支差額

経常収支差額は、教育活動収支差額に主に財務活動の収支である教育活動外収支差額を加算した額です。2021年度の教育活動外収支差額は、金銭信託等の運用により24百万円の黒字となりましたが、経常収支差額は、2億94百万円の赤字と、前年度比では、2億62百万円の赤字幅拡大となりました。

基本金組入前当年度収支差額

経常収支差額に特別収支差額59百万円を加えた基本金組入前当年度収支差額は、2億35百万円の赤字となり、前年度比では、2億5百万円の赤字幅拡大となりました。

2020年度の基本金組入額合計は、1億68百万円で、前年度に比べて1億48百万円増加しました。これは、ITリプレイスにより固定資産が増えて1号引当金への組入れが行われたためです。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を差引いた当年度収支差額は、4億2百万円の赤字となり、前年度比では、3億53百万円の赤字幅拡大となりました。

事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目		本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)−(B)
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	3,845	3,866	4,133	△ 267
	手数料	57	56	68	△ 11
	寄付金	70	74	80	△ 6
	経常費等補助金	569	575	543	32
	付随事業収入	61	70	16	54
	雑収入	250	247	204	43
	教育活動収入計	4,851	4,889	5,044	△ 155
	事業活動支出の部				
	人件費	3,187	3,217	3,148	68
	教育研究経費	1,778	1,666	1,627	39
	管理経費	327	324	326	△ 2
	徴収不能額等	1	1	1	0
	教育活動支出計	5,292	5,207	5,102	105
	教育活動収支差額	△ 441	△ 318	△ 58	△ 260
教育活動外収支	事業活動収入の部				
	受取利息・配当金	25	25	26	△ 1
	その他の教育活動外収入	−	−	−	−
	教育活動外収入計	25	25	26	△ 1
	事業活動支出の部				
	借入金等利息	1	1	1	0
	その他の教育活動外支出	−	−	−	−
	教育活動外支出計	1	1	1	0
	教育活動外収支差額	24	24	25	△ 1
	経常収支差額	△ 417	△ 294	△ 33	△ 262
特別収支	事業活動収入の部				
	資産売却差額	0	0	0	0
	その他の特別収入	88	99	14	85
	特別収入計	88	99	14	85
	事業活動支出の部				
	資産処分差額	39	38	11	27
	その他の特別支出	0	2	0	2
	特別支出計	39	40	11	29
	特別収支差額	50	59	3	56
	基本金組入前当年度収支差額	△ 367	△ 235	△ 29	△ 205
	基本金組入額合計	△ 118	△ 168	△ 20	△ 148
	当年度収支差額	△ 485	△ 402	△ 49	△ 353
	前年度繰越収支差額	△ 1,587	△ 1,587	△ 1,652	66
	基本金取崩額	0	0	115	△ 115
	翌年度繰越収支差額	△ 2,071	△ 1,989	△ 1,587	△ 402

(参考)

事業活動収入計	4,964	5,013	5,085	△ 72
事業活動支出計	5,331	5,248	5,114	134

教育活動収支
経常的な収支のうち、本業である教育研究活動の収支。

教育活動外収支
主に財務活動(資金調達と資産運用に係る活動)の収支。

経常収支差額
経常的な事業活動による収入(経常収入)とコスト(経常支出)の収支差額(バランス)。

特別収支
特殊要因による臨時的な事業活動収入(施設設備取得に対する補助金等)や資産売却損益等。

基本金組入前当年度収支差額
旧帰属収支差額。単年度における事業活動全体の収支差額。

基本金組入額合計
学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額。

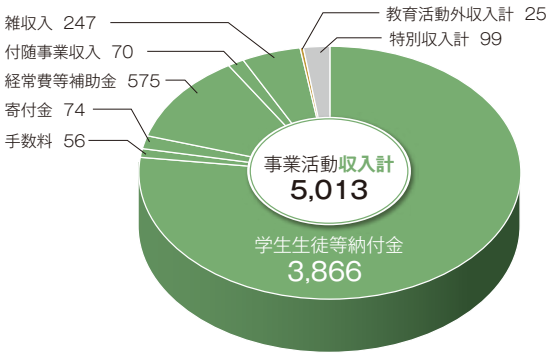
当年度収支差額
旧消費収支差額。基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した額。長期的収支バランスの判断指標。

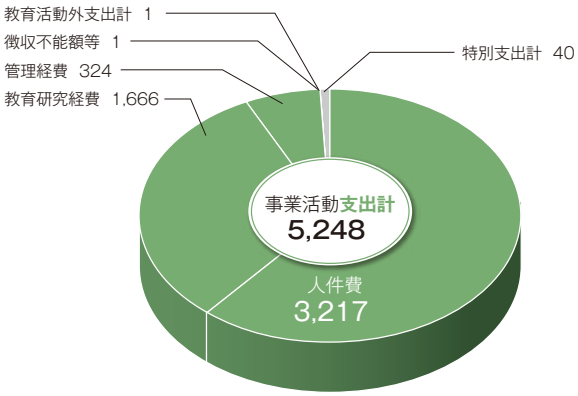
前年度繰越収支差額
翌年度繰越収支差額
当年度収支差額の累積額。

事業活動収入
旧帰属収入。借入金収入や前受金収入等の負債となる収入を除いた正味の収入(現物寄付を含む)。

事業活動支出
旧消費支出。資金支出のない減価償却費や資産処分差額等も含まれ、学校法人の正味の費用。

事業活動収支の内訳





（単位：百万円）
- 教育活動収支
- 教育活動外収入
- 特別収支

事業活動収支推移（収入・支出）

（単位：百万円）

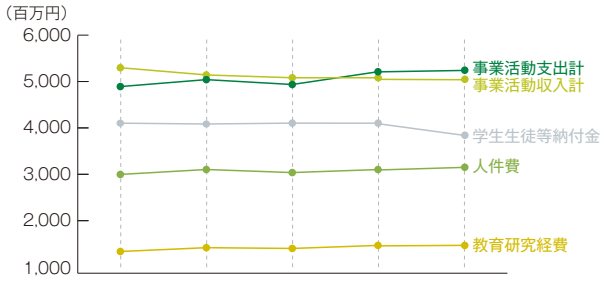
科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
事業活動収入	5,291	5,140	5,082	5,085	5,013
事業活動支出	4,897	5,042	4,940	5,114	5,248
基本金組入額	83	180	496	20	168
学生生徒等納付金	4,131	4,114	4,133	4,133	3,866
手数料	102	107	97	68	56
補助金（教育＋特別）	546	458	469	556	671
人件費	3,059	3,162	3,098	3,148	3,217
教育研究経費	1,447	1,527	1,512	1,627	1,666
管理経費	371	341	318	326	324

事業活動収支推移（収支差額）

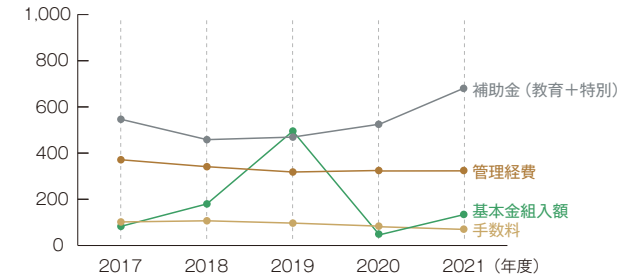
（単位：百万円）

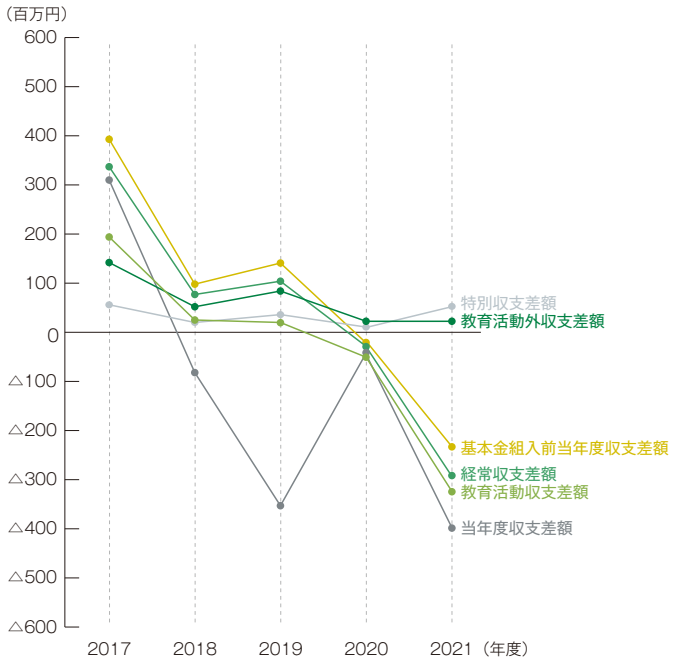
科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動収支差額	194	25	20	△ 58	△ 318
教育活動外収支差額	142	52	85	25	24
経常収支差額	337	77	105	△ 33	△ 294
特別収支差額	56	20	37	3	59
基本金組入前当年度収支差額	393	98	142	△ 29	△ 235
当年度収支差額	310	△ 82	△ 354	△ 49	△ 402

1,000 ～ 6,000 百万円



0 ～ 1,000 百万円





資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに支払資金（現預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。事業活動収支計算書と資金収支計算書はその作成目的が異なるため、事業活動収支計算書では資金の出入りを伴わない項目も計上されますが、資金収支計算書では資金の出入りが反映されます。例えば、有価証券の売却を行った場合、事業活動収支計算書では、売却収入と有価証券の簿価（有価証券の取得価額）の差額が資産売却差額（または資産処分差額）として計上されますが、資金収支計算書では、売却収入額が計上されます。2021年度の資金収支計算書の概要は以下の通りです。

資金収支計算書

（単位：百万円）

収入の部

科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)−(B)
学生生徒等納付金収入	3,845	3,866	4,133	△ 267
手数料収入	57	56	68	△ 11
寄付金収入	70	75	80	△ 5
補助金収入	657	671	556	115
資産売却収入	0	0	400	△ 400
付随事業・収益事業収入	61	70	16	54
受取利息・配当金収入	25	25	26	△ 1
雑収入	250	244	204	40
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	660	544	559	△ 15
その他の収入	195	227	1,585	△ 1,357
資金収入調整勘定	△ 751	△ 860	△ 836	△ 23
前年度繰越支払資金	3,663	3,663	3,347	317
収入の部合計	8,731	8,583	10,138	△ 1,555

（参考）

収入の部合計 −前年度繰越支払資金	5,068	4,920	6,791	△ 1,871

支出の部

科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)−(B)
人件費支出	3,219	3,250	3,144	106
教育研究経費支出	1,461	1,377	1,307	70
管理経費支出	302	299	300	△ 1
借入金等利息支出	1	1	1	0
借入金等返済支出	13	13	13	0
施設関係支出	81	135	57	77
設備関係支出	187	174	96	78
資産運用支出	32	59	1,601	△ 1,541
その他の支出	125	179	128	51
資金支出調整勘定	△ 120	△ 165	△ 172	7
翌年度繰越支払資金	3,430	3,261	3,663	△ 403
支出の部合計	8,731	8,583	10,138	△ 1,555

（参考）

支出の部合計 −翌年度繰越支払資金	5,301	5,322	6,475	△ 1,152

収入の部

以下、2021年度の資金収支の収入の部について説明します。事業活動収支計算書と重複する部分は、前述の事業活動収支計算書をご覧ください。

資産売却収入には、前年度は有価証券の売却収入200百万円及び有価証券の償還収入200百万円が計上されていましたが、2021年度はありませんでした。借入金等収入は2021年度もありませんでした。前受金収入は、2022年度入学者が2021年度よりさらに減少したため5億44百万円となり、前年度比15百万円減少しました。また、その他の収入は前年度多額にのぼった退職給与引当特定資産の振替に伴う特定資産取崩収入がなかったため、2億27百万円にとどまり、前年度比13億58百万円の減少となりました。

前期末前受金及び期末未収入金（資金収入調整勘定）を控除し、前年度繰越支払資金を加算した収入の部合計は、85億83百万円となり、前年度比では15億55百万円の減少となっています。

支出の部

次に、2021年度の支出の部について説明します。収入の部同様に、事業活動収支計算書と重複する部分は、前述の事業活動収支計算書をご覧ください。

借入金返済支出は、2021年度も約定返済により、前年度と同額の13百万円となりました。施設関係支出は、ITリプレイスを主因に1億35百万円と前年度比で77百万円増加しました。設備関係支出も同様の事情により1億74百万円となり、前年度比では78百万円の増加となっています。資産運用支出は、前年度は退職給与引当特定資産の振替に伴う繰入支出で多額にのぼりましたが、2021年度はこうしたことがなかったため、59百万円にとどまり、前年度比では15億41百万円の減少となりました。前期末前払金及び期末未払金（資金支出調整勘定）を控除し、翌年度繰越支払資金を加算した支出の部合計は、85億83百万円で、前年度比では15億55百万円の減少となりました。

貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末の財政状態（運用形態と調達源泉）を明らかにするものです。

2021年度の貸借対照表の概要は次の通りです。

貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部 科目	本年度末（A）	前年度末（B）	増減（A）−（B）
固定資産	14,865	14,914	△ 48
有形固定資産	8,378	8,415	△ 37
土地	1,693	1,692	1
建物	3,687	3,765	△ 79
構築物	405	421	△ 16
教育研究用機器備品	474	427	47
管理用機器備品	33	35	△ 2
図書	2,087	2,075	12
車両	1	1	0
特定資産	6,361	6,345	16
第3号基本金引当特定資産	1,662	1,603	59
退職給与引当特定資産	1,396	1,429	△ 33
減価償却引当特定資産	3,137	3,137	0
岡田山建築保存引当特定資産	167	176	△ 10
その他の固定資産	126	153	△ 27
電話加入権	4	4	0
ソフトウェア	14	19	△ 5
有価証券	0	0	0
差入保証金	4	4	0
出資金	21	21	0
貸与奨学金	82	105	△ 23
その他	0	0	0
流動資産	3,581	3,830	△ 248
現金預金	3,241	3,644	△ 403
修学旅行費預り資産	20	19	0
未収入金	301	155	146
前払金	20	12	8
資産の部合計	18,447	18,744	△ 297

負債の部 科目	本年度末（A）	前年度末（B）	増減（A）−（B）
固定負債	1,527	1,573	△ 46
長期借入金	131	144	△ 13
退職給与引当金	1,396	1,429	△ 33
流動負債	847	862	△ 16
短期借入金	13	13	0
未払金	156	162	△ 5
前受金	544	559	△ 15
預り金	113	109	4
修学旅行費預り金	20	19	0
負債の部合計	2,374	2,436	△ 62

純資産の部 科目	本年度末（A）	前年度末（B）	増減（A）−（B）
基本金	18,062	17,895	168
第1号基本金	16,046	15,938	108
第3号基本金	1,662	1,603	59
第4号基本金	354	354	0
繰越収支差額	△ 1,989	△ 1,587	△ 402
翌年度繰越収支差額	△ 1,989	△ 1,587	△ 402
純資産の部合計	16,073	16,308	△ 235
負債及び純資産の部合計	18,447	18,744	△ 297

資産の部

2021年度末の固定資産は、148億65百万円と前年度比48百万円の減少となりました。前年度比減少の要因は、主に、有形固定資産の減価償却3億14百万円です。

2021年度末の流動資産は35億81百万円となり、前年度比では、現金預金の減少を中心に、2億48百万円の減少となりました。

2021年度末の資産の部合計は、184億47百万円と前年度比2億97百万円の減少となりました。

負債の部

2021年度末の固定負債は、15億27百万円と前年度比46百万円の減少となりました。これは、私立学校振興・共済事業団からの長期借入金が約定返済により13百万円減少するとともに、退職給与引当金が33百万円減少したためです。

2021年度末の流動負債は、8億47百万円となり、前年度比16百万円の減少となりました。これは、新入生の減少により、前受金が前年度比15百万円減少し、5億44百万円となったことによるものです。

2021年度末の負債の部合計は、23億74百万円となり、前年度比62百万円の減少となりました。

純資産の部

2021年度末の基本金は、180億62百万円となり、前年度比168百万円の増加となりました。前年度比増加の主因は、第1号基本金※が1億8百万円増加し、第3号基本金※※が59百万円増加したことによるものです。

2021年度末の繰越収支差額は△19億89百万円となり、前年度比で、事業活動収支における当年度収支差額（△4億2百万円）相当額分、マイナス幅が拡大しております。

※　第1号基本金は、学校法人が設立当初に取得した教育の用に供される固定資産および教育の充実向上のために取得した固定資産の価額となっています。

※※ 第3号基本金は、基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額となっています。

財務比率の推移

過去5年間の事業活動収支計算書、貸借対照表の財務諸比率の推移は次の通りです。
(財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています)。

事業活動収支計算書関係比率

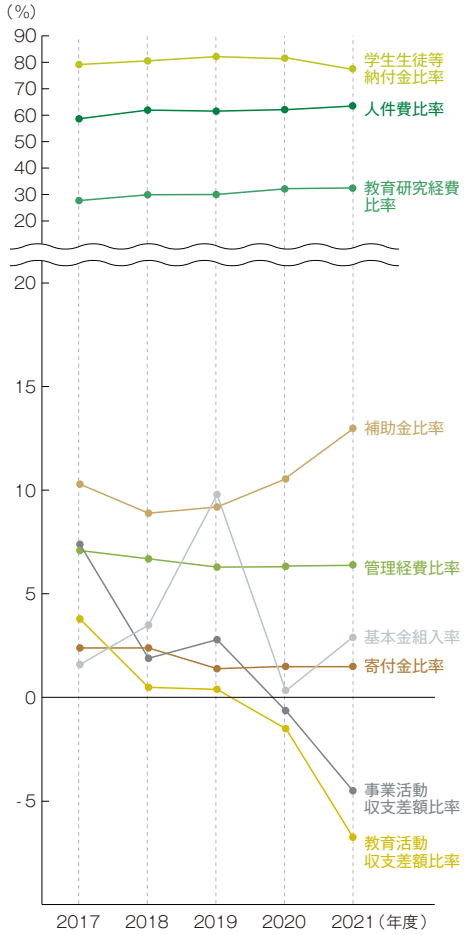
(単位:%)

比率名	計算式	評価	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	全国平均	同規模平均
人件費比率	人件費 / 経常収入	▼	58.6	61.9	61.5	62.1	65.5	51.8	49.9
教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入	△	27.7	29.9	30.0	32.1	33.9	35.2	37.9
管理経費比率	管理経費 / 経常収入	▼	7.1	6.7	6.3	6.4	6.6	8.2	7.3
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	−	79.1	80.5	82.1	81.5	78.7	74.4	53.5
寄付金比率	寄付金 / 事業活動収入	△	2.4	2.4	1.4	1.6	1.5	2.3	2.1
補助金比率	補助金 / 事業活動収入	△	10.3	8.9	9.2	10.9	13.4	14.1	14.9
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 / 教育活動収入計	△	3.8	0.5	0.4	-1.2	-6.5	3.0	3.5
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入	△	7.4	1.9	2.8	-0.6	-4.7	5.2	5.5
基本金組入率	基本金組入額 / 事業活動収入	△	1.6	3.5	9.8	0.4	3.3	10.4	9.7

(注)1. 評価欄は「△:高い値が良い」「▼:低い値が良い」「−:どちらともいえない」を示しています。
(日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」、日本私立大学連盟「新学校法人会計基準の財務比率に関するガイドライン」を参考に記載。以下同じ。)

2. 経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

3. 平均値は2020年度決算の平均値であり、全国平均は医歯系法人を除く全国518大学法人の平均値、同規模平均は学生生徒数3〜5千人規模の全国117大学法人の平均値を示しています。

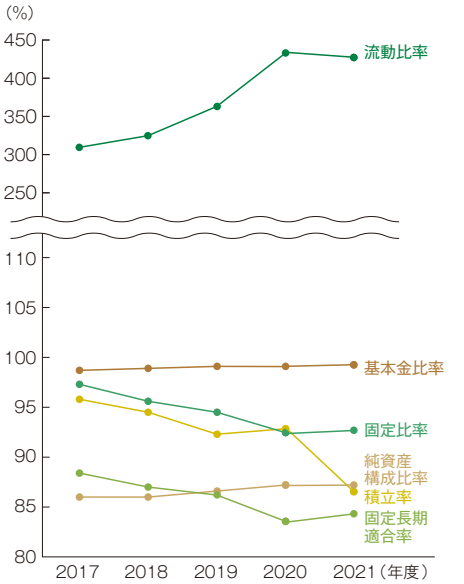


貸借対照表関係比率

(単位:%)

比率名	計算式	評価	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	全国平均	同規模平均
流動比率	流動資産 / 流動負債	△	309.6	324.9	363.1	444.1	423.0	256.6	300.4
固定比率	固定資産 / 純資産	▼	97.3	95.6	94.5	91.5	92.5	98.2	95.3
固定長期適合率	固定資産 / 純資産＋固定負債	▼	88.4	87.0	86.2	83.4	84.5	91.2	88.6
基本金比率	基本金 / 基本金要組入額	△	98.7	98.9	99.1	99.0	99.1	97.2	97.7
純資産構成比率	純資産 / 総負債＋純資産	△	86.0	86.0	86.6	87.0	87.1	87.9	87.9
積立率	運用資産 / 要積立額	△	95.8	94.5	92.3	91.6	86.7	78.0	69.3

(注)1. 運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券
要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋２号基本金＋３号基本金



2021 ―2025年度

中期計画

（2021年3月24日　理事会承認）

はじめに

神戸女学院は1875年の創立以来、「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」を軸とする少人数制の女性教育によって、才気あふれる卒業生を輩出してまいりました。わたくしたちはこれからも、時代と対話しつつ、永久標語「愛神愛隣」への理解を深め、培ってきた教育の姿勢をさらに展開させ、高い他者共感性を備えて世界に仕え、もって未来を切り拓く生徒・学生を送り出してまいります。

本学院の創立者であるお二人の女性宣教師は、米国最初の海外宣教団体アメリカンボードより派遣され、切支丹禁令の高札撤去直後の1873年4月、神戸に着任されました。伝道開始から間もなく出会った数名の婦人らより子女への教育を請われ、私塾で聖書と英語と音楽などを教えます。二年後に「女學校」が開設されました。開校に際して、創立者イライザ・タルカットは、生徒たちに「目を上げ、背筋を伸ばし、前を見なさい」と語りかけ、神の前に一人の人として立つ自立的かつ自律的な、聖書に基づく人間の在り方を示しました。もう一人の創立者ジュリア・ダッドレーも「愛神愛隣」の聖句をもって、キリスト教の理解に大切な「隣人愛」を教えました。お二人に続く宣教師の先生方は教育の方法としてリベラルアーツの理念を導入し、今日の礎を築かれました。現在、神戸女学院には中学部、高等学部、大学、大学院に約3,500人が学び、多様な場面に立ち向かいうる知性と教養を身につけるため、それぞれの目標と専門に応じた研鑽を重ねています。

今般の中期計画を立てるにあたり、大学と中高部はそれぞれ教育の基本認識を提示しました。キリスト教、国際理解、リベラルアーツ、高い共感力、豊かな人間性など、先達から継承した多くの指標が共有されています。私学は元来、訴えるべきメッセージがあって歩み始めた教育共同体です。2025年、わたくしたちは創立150周年を迎えます。受け継いできたものを次世代へと架橋するよう努めつつ、お支えくださる方々の思いに学び、不足点をただし、女性への教育機関としての意味をさらに問い、校地・校舎の更新、リベラルアーツ教育の深化、教育・研究環境の改善、グローバル化・技術化への対応、社会からの要請など諸課題に取り組み、新たな歴史を創り出してまいります。

理事長・院長　飯　謙

大　学

神戸女学院大学は、キリスト教主義、国際理解の精神、リベラルアーツ教育の3つの教育の柱を掲げ、主体的に学び、高い共感力と対応力、それらを素地とした専門的能力を備え、様々な場面でリーダーシップを発揮することの出来る女性を育てることを教育の目標としています。

この目標を達成するための教育の場であり続けるために、これからの5年間、以下の項目を実施致します。

① 2017年度より施行の新カリキュラムの効果の検証をし、必要に応じたリベラルアーツ教育のさらなる可視化、強化を目指した改訂を施す。

② アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーなどに記載の本学学修目標のさらなる可視化を実践し、今後の質保証・教学マネジメントの体制を整備する。

③ 受験生に分かりやすい本学の情報を継続的に提供するとともに、新学習指導要領および入試改革に適切に対応した入試の体制を整備する。

④ ウィズ・コロナ、アフター・コロナにおいての、学修者に寄り添った教育の体制を整備する。キャンパスと教室を活用した対面授業の充実と、時代に即した質の高いオンライン教育の両立を図り、さらにリカレント教育、教育の国際化などに対応できる体制を強化する。

⑤ 教育研究環境及び組織の整備と質の向上、特に、教員のジェンダーバランスの適正な維持、研究者養成も含む、学修者・研究者の多様化に対応出来る体制を整備する。これに伴い、本学が求める教員像との関連を考慮し、教員構成のあり方について検討する。

⑥ 学長を中心とした組織部署の適切性の検証をし、大学全体のガバナンスのあり方を持続的に検証する。

⑦ 地域連携・国際連携活動を通し、SDGｓに対応出来る人材を育成し、全学レベルでSDGｓとの関わり方についての共通認識を醸成する。

⑧ 2025年学院創立150周年に向け、学院とともに多様な学生の姿に対応したハードおよびソフト面の教育体制を立案し、具体化する。

中高部

神戸女学院中学部・高等学部は、キリスト教による人格形成、国際理解のための英語教育、生徒の主体的な学び、を尊重することにより、豊かな人間性とリーダーシップを持った自立した女性を育てることを教育の目標としています。

これからの5年間において、真理を探究する学びの場としてのふさわしい環境を整えるために、以下の6項目を実施していきます。

① 少人数化クラスの教育環境を順次整える。また、校舎の改装をする。

② 問題を抱える生徒に寄り添い対応していくことができるように、特別支援体制を整える。

③ ITを用いた適切な教育環境、学習形態を再検討し、その体制を整える。

④ 課外活動である放課後のクラブ活動について、学校が担える部分と、外部の方が担える部分との検討をし、体制を整える。

⑤ 学習環境を整えるために、葆光館、アンジー・クルー記念館の空調システムや、ロッカー室の整備を行う。また、老朽化の進んだ部分の改修工事を行う。

⑥ 新学習指導要領に対応した、新しいカリキュラムを作成し実施する。

2022年度 事業計画

（2022年3月23日　理事会承認）

Ⅰ. 神戸女学院が今後取り組む改革

■改革の必要性■

- 2021年度大学入学者数は、479名とこれまで維持してきた入学定員（566名）を大幅に割り込むこととなりました。この原因については、入試現場からの情報等を踏まえると、18歳人口の減少が顕在化してきている中で大学間での学生獲得競争が強まり、学科改編や施設の更新等により大学進学者へ魅力を訴える大学が増えてきていること、大学進学者が資格取得等が可能な学科を選好する傾向が強まってきていること、新型コロナウィルス感染拡大に伴う先行きの不透明感がこうした傾向を一層加速していること、などが影響しているものと考えられます。
- こうした中で、神戸女学院は、これまでも建学の精神を大切にしつつ、教育内容の見直しに取り組んできましたが、入学者をめぐる環境が急激に変化してきている中にあって、改めて時代の要請に合った教育について考え直す必要が出てきているといえます。このため、これまでも大切にしてきた建学の精神は堅守しつつも、時代の変化にも対応する形で学院教育を見直すことが必要です。
- 経営面でも、これまでと同規模の学生数確保が困難であることを前提として見直しを図る必要があります。また、いろいろな変化に対して学院経営を迅速に対応させるために、事務体制の見直しを図ることも必要となっています。このほか、文科省が検討中の学校法人のガバナンス改革に合わせた改革も視野に入れて改革を行う必要があります。

1. 大学改革

2021年度の入学者数が大幅に落ち込み、本学は大きな危機に直面しています。背景には18歳人口の減少に加えて、新型コロナウィルス感染症拡大といった社会環境の変化がありますが、時代の変化に応じた教学内容の改編や他大学との差別化を本学が図れず、それにより高校生等の本学への興味が薄れ認知度が低下したことで、今回の志願者および入学者の減少を招いたと考えられます。この状況を挽回するためには、大学の存在とその内容の認知度向上のための方策を立て実行していくことが急務です。この危機を乗り越えるために、神戸女学院の全教職員が力を合わせ、変化し続ける組織をつくり、今後も激しく変化する社会に対応していく必要があります。

そのために、以下の改革に取り組みます。

- 既存学部の改組をはじめとする社会ニーズ等に応じた教育研究体制の見直しに着手します。
- 本学の教育の三つの柱（キリスト教主義、国際理解の精神、リベラルアーツ教育）に基づく教育研究活動の取組みについて、学生、受験生をはじめ、社会により広く理解されるよう、広報を強化していきます。
- 外部との接点を増やし、社会のニーズを常にキャッチできる体制づくりを進めます。
- 現行の古い仕組みを変え、それぞれの責任においてスピーディーに物事を進める仕組みづくりを進めます。
- 教員と職員が1つの課題に異なる立場から関わり、対応すべき課題に適切に打つ手を整えられるよう、教職協働を強化します。

2. 経営改革

1 運営体制・組織の見直し

① 理事長補佐機能の充実・事務局長設置の検討

- 学院をめぐる経営環境が厳しくなってきている中、学院の経営問題に迅速に対処するために、事務組織のトップに事務局長を置く方向で検討を開始します。
- こうした見直しは、学校法人ガバナンス改革の方向性を確認しつつ、検討を進めます。

② 大学の教学改革に伴う大学組織・職員配置の見直し

- 学長サポート機能の強化の観点から、大学事務長室と学長室を一本化します。
- 学長の下に大学事務長に加えて、１名から２名の大学事務長補佐を置きます。
- 大学広報と入試広報の相互に協力しあえる体制、ウェブサイトでの発信の速攻性の確保のため、広報課（仮）を新設し、大学事務長の管轄下に置きます。
- この体制下で、学部事務室と教務課との事務の割り振りの再検討を進め、学部事務室のスリム化を進めます。

2 人事・給与体系等の見直し

- 学院の経営状況に即した人事・給与体系となるよう、見直しについて検討を開始します。

3 就業規則の見直し

- 2021年度に運用面で課題が浮き彫りとなった就業規則について、2023年度の実施をめざし、2022年度中に就業規則改訂の検討を行います。

4 人材育成（主として職員）

- 将来の学院を担える見識ある人材を育成するための育成プログラムを検討します。

5 施設整備

- 現在凍結している「神戸女学院キャンパス再整備マスタープラン」については、一方で、キャンパス再整備自体が、入学者を確保する重要な要因であることも事実であり、いたずらに凍結を継続することも好ましくありません。また、150周年寄付募集の強力な材料でもあります。
- 大学の教学改革や在学者数減に伴う施設に求める量・質の変化を正確に把握するとともに、支出可能な資金の確認を行い、凍結を解除し得るかどうかを検討します。

6 資産運用

- 資産運用にあたり、引き続き資産の安全性にウェイトを置きつつも、利回りの向上の余地がないか、資産運用方針の見直しを検討します。

Ⅱ. 部署別計画

1. 大学

1 広報の強化

- 改めて、学生・保護者に加えて受験生等を含む広義のステークホルダーの目線から、広報の内容を点検し、本学の学びの魅力の発信を充実させるとともに、特に入試広報においては、高校低学年からの本学への認知度向上を意識した取り組みを進めます。また、本学の強みの一つである就職実績についても効果的な広報を展開します。
- 2023年度に予定しているホームページのリニューアルにおいて、本学サイトと入学情報サイト、キャリアセンターサイトを統合し、受験生にわかりやすいサイトを構築します。

2 国際化の推進

- 神戸女学院大学の教育の三つの柱の一つでもある、国際理解の精神を発展させるものとして、国際的な知見を養うための教育体制の具体化を検討していきます。
- ウィズ・コロナにおける安全に配慮した留学プログラムの実施に取組むとともに、オンラインを活用する等の対応も充実させます。
- 英語力の養成について、オンラインプログラムやTOEIC講座の開催に加え、外部英語資格試験への受験料補助などの取組みを継続します。

3 学修環境とその体制の充実と強化

- ウィズ・コロナ、アフター・コロナにおけるキャンパスと教室を活用した安全な対面授業の充実を図ります。
- 時代に即した質の高いオンライン教育と対面教育との両立を図るために所要の整備を行います。

4 リベラルアーツ教育の推進

- 学部・学科の枠組みを越えて学生が同じ教室に集い、共通のテーマについて幅広い視点で考察するクローバーゼミについて、導入後６年目を迎え、充実発展を図るため、改めて内容を検証します。
- Society 5.0の時代に向けて、数理・データサイエンス・AI教育の充実を図るとともに、より発展させるための新たな構想の検討を行います。

5 社会連携の強化

- 本学の教育の柱の一つであるリベラルアーツの意味を地域社会に伝えることを目的とした新たな公開プログラムを開始します。
- 高大連携推進の一環として、高大連携協定に基づく高大接続授業の継続的な実施を通じて、相互理解を深め、生徒・学生の育成に寄与します。

2. 中高部

1 1クラス40人以下の教育環境の整備

- ２０２３年より中学部35人×4クラス体制を決定したことを受けて、教員の配置計画と、校舎改築による教室整備計画を検討します。

2 特別支援への対応強化

- 不安を抱える生徒への対応として、今年はカウンセリング体制を強化します。

3 IT関連の整備

- IT環境の整備の具体案を計画するとともに、2022年から新しくなった教科「情報」の実施計画、大学共通テストへの対応のための環境、授業内容について準備を進めます。

4 クラブコーチ制への移行の検討

- クラブコーチ制導入、利用のための条件について整備します。

5 就学環境の整備

- 昨年度に引き続き、葆光館空調システムの改修を行います。

6 新カリキュラム関係

- 高校１年生に対する新カリキュラムがスタートします。これに伴い、新しいカリキュラムの運用を行います。

2022年度 事業計画

（2022年3月23日　理事会承認）

3. 法人

1 150周年関係

- 大学の教学改革やそれに伴うキャンパス再整備マスタープランの動向を確認しつつ、創立１５０周年に向けて、事務局としての適切な運営を図り、今後の計画の策定・実施を行います。

2 法人運営関係

- 学校法人ガバナンス改革の方向性を確認しつつ、大学改革を推進すべく事務組織・職員配置の見直しについて検討を開始します。
- 危機管理規程に基づき、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大という重大な危機事象への適切な対応と円滑な事業継続の実現に努めます。

3 財務関係

- 2021年度の大学入学者減を受け2022年度も2021年度に引き続き事業活動収支の赤字が不可避の見通しとなっています。加えて、2022年度の大学入学者数についても、予算策定時に想定した入学者数を下回る可能性もあります。状況の変化に応じて適切な対応を図るよう努めます。
- 低金利下における利子・配当収入確保は一段と難しくなってきていますが、学院収支悪化を踏まえて、リスクとのバランスに十分配慮しつつ金融資産運用による収入増を図るよう努めます。
- 2021年度に策定した「キャンパス再整備マスタープラン」については、現在実施に向けての検討を凍結していますが、2022年度の入学者の状況等を踏まえつつ、財務面からみた計画凍結の解除の可能性について検討を行います。
- 従前より検討中の旅費規程の見直し作業を進め、旅費関連事務の標準化を図るよう努めます。

4 施設関係

① キャンパス再整備マスタープラン関係

- 現在凍結中の2021年7月に策定した「キャンパス再整備マスタープラン」については、凍結解除の判断が決定された場合には、創立150周年記念事業として実施すべきプランを精査し、理事会も含めた関係部署とも随時意見交換を行いながら基本設計及び実施設計を進めます。

② 学院施設の充実

- キャンパス内各所の社会的障壁の除去及び合理的配慮をより一層推進するための計画として構内通学路のバリアフリー化を進めます。
- 予防保全として音楽学部2号館の経年劣化した屋上の防水層を全面改修します。
- 設置後20年以上経過した学生寮の油圧式エレベータ2基を機械室が不要なロープ式エレベータに更新します。
- 現在使用されていない院長公舎を解体し、仮設駐輪場他として活用できるよう整備します。
- 設置後20年以上経過する社交館２，３階の空調室外機は規制により2020年に全廃されたR22冷媒（フロンガス）を使用していることから故障修理が困難なため更新します。
- 順次行っている教室及び廊下の蛍光灯照明のLED化について、2022年度はジュリア・ダッドレー記念館、新社交館、渡廊下を対象として改修を進めます。また外灯の水銀灯のLED化も併せて実施します。
- 文学館は配線経路が長く、また近年、既存のケーブルに対して電流負荷が上昇し、老朽化も高じて電圧低下による障害が頻発しています。その抜本的対策としてのケーブルの更新他の改修を計画します。

③ 重要文化財保存活用関係

- 美装化により順次進めている室内の塗装めくれ修理として、講堂北面高窓の側壁及びヴォールト天井部、ソールチャペル二階南東部の補修を行います。
- 理学館屋根漏水修理として2021年度に瓦及び下地の状況を調査した結果を踏まえ、豪雨時に漏水が生じないように防水シートを敷設、傷んだ古瓦に補修を施した上、葺き直します。
- 2022年度から三か年計画の文化庁補助事業により正門及び門衛舎の保存修理工事を実施、初年度は基礎と地盤の調査等を行う予定です。

校地・校舎

岡田山キャンパス

所 在 地　西宮市岡田山4番1号
校地面積　145,549.62m²

1 正門
2 音楽学部１号館
3 音楽学部２号館
4 ジョージ・オルチン記念音楽館
5 エミリー・ブラウン記念館
6 文学部１号館
7 文学部２号館
8 デフォレスト記念館
9 図書館本館
10 理学館
11 総務館／エミリー・ホワイト・スミス記念講堂／ソールチャペル
12 文学館
13 理学館別館・心理相談室
14 社交館
15 新社交館
16 メアリー・アンナ・ホルブルック記念館
17 第一体育館
18 第二体育館
19 第三体育館
20 テニスコート
21 購買部
22 シェイクスピア・ガーデン
23 図書館新館
24 ジュリア・ダッドレー記念館
25 エッジウッド館
26 ケンウッド館
27 メアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮
28 岡田山ロッジ
29 大学クローバー館（クラブハウス）
30 茶室（松風庵）
31 ミリアム館
32 汽罐室と煙突
33 アンジー・クルー記念館
34 コミュニケーションセンター
35 葆光館（中高部）
36 ヴァージニア・クラークソン記念館
37 タルカット記念館
38 めぐみ会館（同窓会館）
39 Kobe College International Students House

● は重要文化財

東京寄宿舎クローバーハウス

所 在 地　東京都渋谷区大山町8番7号
校地面積　367.46m²

学校法人 神戸女学院

〒662-8505 西宮市岡田山4番1号　TEL 0798-51-8508（経理課）
http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html